

意欲的に学び合う保健学習指導の工夫

～1 学年の「心の発達・健康」学習を通して～

沖縄市立宮里中学校
教諭 仲宗根 賢

I テーマ設定の理由

近年、現代人はライフスタイルの変化により、肥満やストレス等、健康に関して様々な問題を抱えるようになってきた。肥満やストレスは、死因の上位を占める生活習慣病の大きな要因となっている。これは成人のみならず、子どもにも同様に起きている問題である。ストレスや心の問題を抱え、不登校や非行に至る生徒も増えてきている。テレビや雑誌、インターネット等マスメディアでは健康に関することが多く取り上げられ、今や心身の健康の保持増進は国民の大きな関心・課題となっている。

このような社会背景のもと、学校においては保健の学習がこれまで以上に重要なものとなってきている。新学習指導要領、保健体育・保健分野においては「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことをねらいとしている。まさしく「生きる力」につながる教科、学習内容だといえよう。また、「心の健康」の単元では社会の中での増大するストレスに対応できるよう、新たにストレスへの対処に関する内容が加えられ、自己の形成及び欲求やストレスへの対処に関する内容に重点を置くこととし、社会の現状を踏まえた学習内容が加えられるようになってきた。

このように保健の学習が重要になってきた今、学校現場はどうであろうか。私がこれまで赴任した学校の生徒においては、保健分野の授業は好まれていないことを感じるが多かった。次時は保健の授業を行うと予告すると「保健は嫌だあ」

「体育がいい」と露骨に表現する生徒も多い。保健分野の学習は生徒が自分自身の事として興味・関心を持って取り組める内容であるにも関わらず、実際の授業を見ると、意欲的に取り組んでいると

は言えない。知識の多さやその知識の理解だけでは生活における実践力にはつながらないとも言われているが、このような現状では、生活における実践力を望むことは、不十分だと言えよう。しかし、これは一概に生徒だけに原因があるとは言えない。自らの授業実践を振り返ってみると、教師主導の一斉指導型の授業がほとんどで、生徒は受け身となつての学習であつた。その結果保健の学習に魅力を感じさせる事ができず、興味・関心や意欲を高めることができなかったように思える。

新学習指導要領では各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫することとしている。県や市の教育施策においても学習形態の工夫・改善や効果的な学習指導が求められている。

本校においても平成12年度から14年度にかけて沖縄県と沖縄市の指定を受けて教育課程研究校として「自ら課題意識をもち主体的に解決し、生きる力を育むための学習指導の工夫」をテーマに「仲間と交わりながら学びを広げていく営み（活動）」を、学び合いとして捉え、それが重要だとし、研究をしている。

そこで保健の授業で、コンピュータ等の情報機器を効果的に活用することにより、生徒の興味・関心を引き出したり、ブレインストーミングやディスカッション、ロールプレイ等のグループ学習を取り入れ、学習形態を工夫することによって、生徒が自主的・自発的・意欲的に学び合うようになるだろうと考えた。また学び合いで習得した知識は現在及び将来の生活における健康な生活を送る実践力につながるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

- 意欲的に学ぶ生徒
- 自ら考え行動する生徒
- 自らの健康や体力に関心を持ち、生活の中で管理、改善を適切に実践できる生徒

III 研究目標

保健の授業で興味・関心を持って意欲的に取り組み、学び合う授業の工夫

IV 研究仮説

1 基本仮説

保健の学習で情報機器を効果的に活用し、授業形態や教材・教具を工夫することによって意欲的に取り組み、学び合うようになるであろう。

2 具体仮説

- (1) 保健学習や学び合いに関する理論研究や生徒・教師の実態調査を行い、分析することによって実態に応じた指導のあり方が明確になるであろう。
- (2) 情報機器を効果的に取り入れ、授業形態や教材・教具の活用を工夫することによって意欲的に学習し、学び合うようになるであろう。
- (3) 各授業で生徒に学習の感想を書かせたり、自己評価を行わせ、教師がそれを分析する事により、よりよい学び合いが作り出せ、生活の中での実践化につながるであろう。

V 研究構想図

次ページ

VI 研究内容

1 研究内容 1

- (1) 保健学習、実践力、学び合いの捉え

① 保健学習のねらい

中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）では保健学習のねらいを「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」とし、健康・安全についての科学的な理解を通して、現在

及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断及び意志決定を行い、自らの健康の管理や生活行動及び環境の改善を適切に実践できるような資質や能力、即ち実践力を育成することを目指している。

② 実践力を身につける学び合いの捉え

今、「実践力」や「生きる力」が求められている。「生きる力」とは単に過去の知識を記憶しているだけでなく、初めて遭遇するような場面でも、自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力である。（第 15 次中教審 1996）生活に生きて役に立つ力、積極的、適応的に行動化できる力を養うことが学校に求められている。保健学習にも、その「生きる力」や生活における「実践力」が求められているのである。その「生きる力」や「実践力」を身につけていくためには、学びの方法の転換が求められている。知識習得主義から学びの方法への転換である。「何を学ぶか、何を教えるか」と言った内容知から「どのように学ぶか、どのような資質や能力を身につけるか」といった方法知への転換である。各教科の内容は、生徒一人一人の生きてきた脈絡の中で体験的に学ばせる事、個々のその人らしい学びをつなげていくことが求められている。そのため、授業においては多様な方法や形態の工夫が必然となるのである。

学び合いをつくり出していくにはグループ学習が有効だとされている。グループ学習における生徒同士の対話には言語を媒体に、自分と相手の立場を確認しながら自分の思いを確かめ、くずし、組み立てていくなどして、活発な思考の再編がくり返されている。また、思考や知識の再構成にとどまらず、自己肯定、他者理解と尊重、所属、自己変容への期待などの人間性の形成に向かう部分も見られる。そのような学び合いを通して得た知識は魅力ある深い理解となり、生活における実践力につながる生きた知識となるものと考えられる。

V 研究構想図



(2) 生徒・教師への実態調査

① 保健学習に関する調査

ア 調査目的

保健学習に関する生徒と教師の調査を行い、本研究の資料として役立てる。

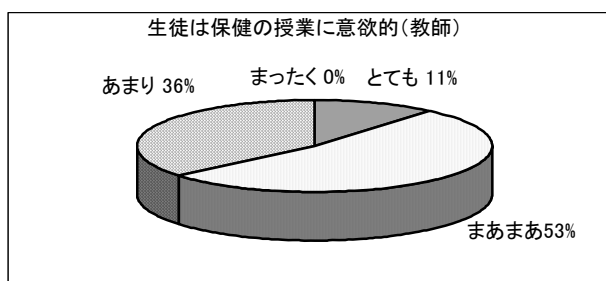
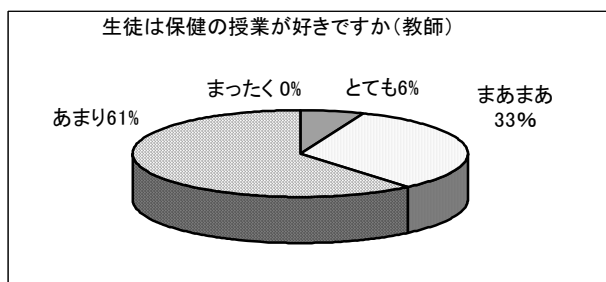
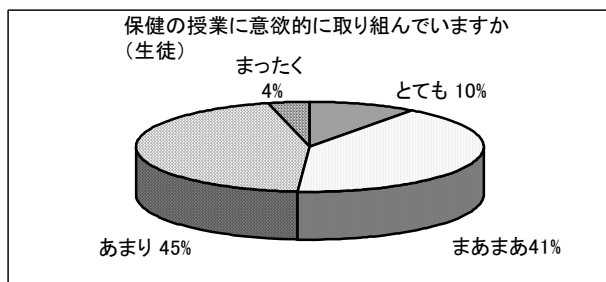
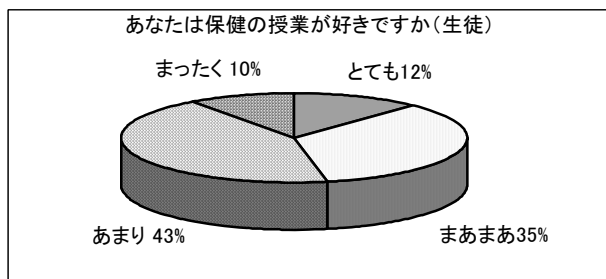
イ 調査方法

(ア) 期間:平成 18 年 10 月 30 日～11 月 7 日

(イ) 宮里中学校 1 年生 129 名

沖縄市内中学校保健体育教諭 37 名

(ウ) 調査の結果と分析・考察

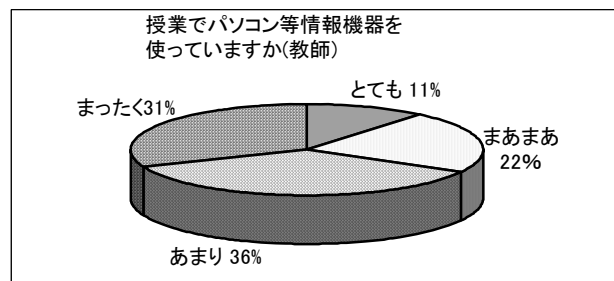
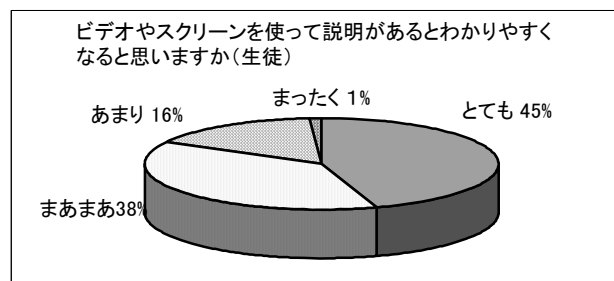
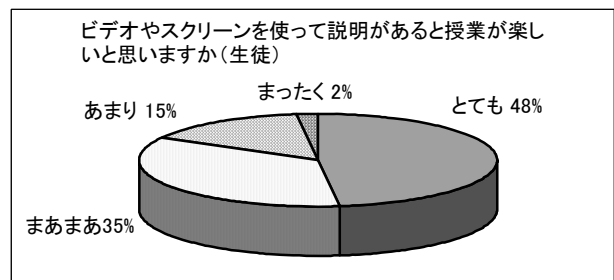


保健の授業は好きかという質問に対して「とても」12%、「まあまあ」35%で、好きと答えた生徒は全体の半数以下の47%であった。

沖縄市内の中学校保健体育教諭に行った調査で、

「生徒は保健の授業が好きか」という質問で好きと答えた教師は「とても」6%、「まあまあ」33%であわせても39%となっており、生徒に行った調査と比べて教師は生徒が保健の授業を好んでないと感じている。

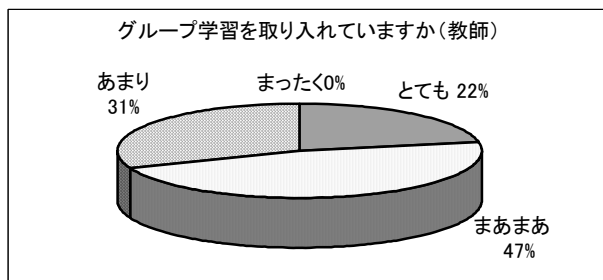
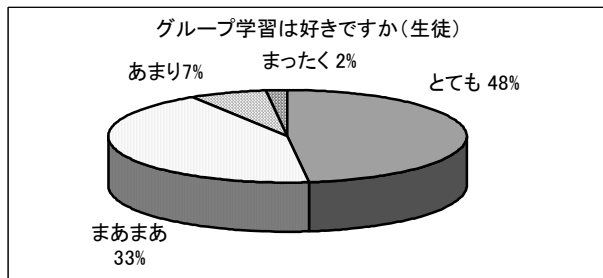
授業でのパソコン等情報機器の活用という観点で見ると次のような調査結果となっている。



生徒に対しての調査ではビデオやスクリーンを使っている説明があると授業が楽しくなると答えた生徒が83%、ビデオやスクリーンを使って説明があると授業がわかりやすくなると答えた生徒が83%と高い数値を示しているが、教師に対して行った調査ではパソコン等情報機器を使うと指導効果があると思うと答えた教師が97%となっていて、ほぼ全員がパソコン等情報機器の指導効果を理解している。また授業で活用してみたいと思っている教師が88%と高い数値を示しているが、実際の授業でパソコン等情報機器を使っている教師は33%と少ないことがわかった。

学習形態で見ると、グループ学習は好きですかと

いう質問に対し「とても」48%「まあまあ」33%となっており、グループ学習が生徒に好まれていることがわかった。一方、教師に対しての調査では授業の中でグループ学習を取り入れているのは「とても」22%「まあまあ」47%となっており、生徒が好んでいるほど実際の授業では取り入れられていないことがわかる。



② 生徒の心に関する調査

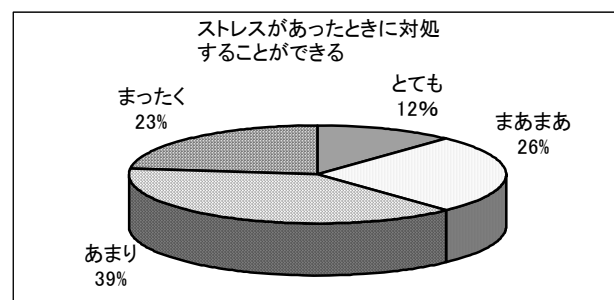
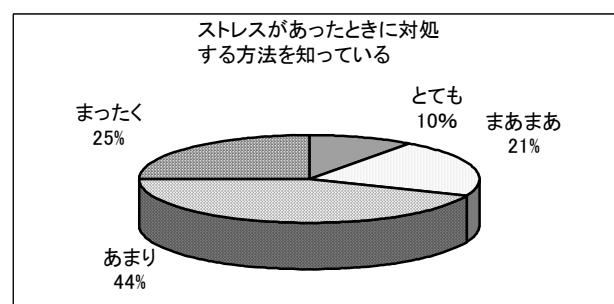
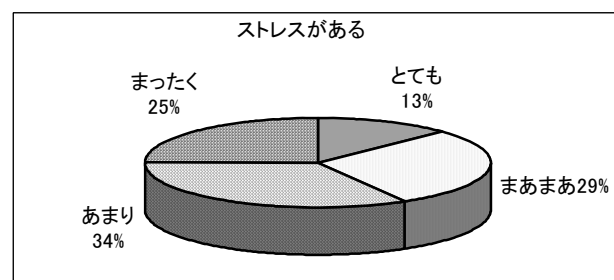
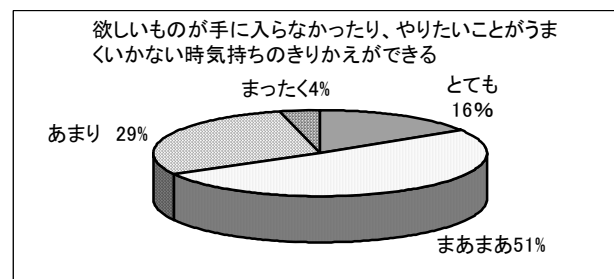
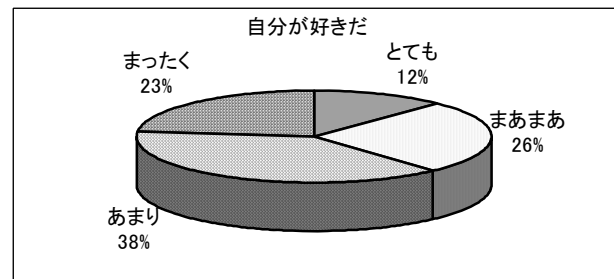
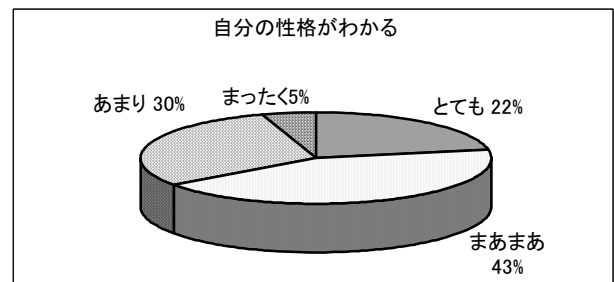
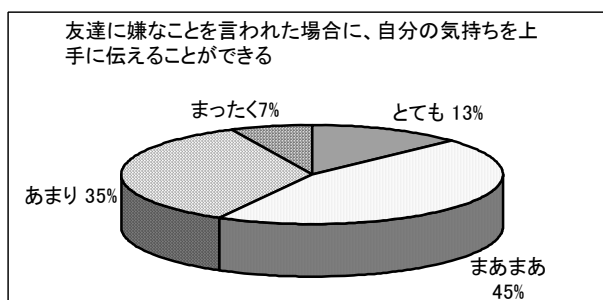
ア 調査目的

- (ア) 「心の発達・健康」に関して生徒の実態を調査することによって授業作りに役立てる。
- (イ) 授業で生徒に自分の学校の身近なデータを示すことで学習に役立てる。
- (ウ) 検証授業前と検証授業後に調査を行い、学習後の生徒の変容を検証する。

イ 調査方法

- (ア) 期間:平成 18 年 11 月 21 日～11 月 27 日
- (イ) 宮里中学校 1 年生 140 名

ウ 調査の結果と分析・考察



友達に嫌なことを言われた時に上手に自分の気持ちを伝えることができない生徒が 42% もいる。

「自分の性格がわかる」ということに対しては 35% の生徒があまりわかっていない。

また、自分が好きだという生徒は 36% と少ない数値となっている。欲求がかなわない時に気持ちのきりかえができない生徒が 33%、ストレスがあると答えた生徒が 42%、ストレスに対処する方法を知らないと答えた生徒が 69%、ストレスがあったときに対処することができない生徒が 62% となっている。

今回の調査で、授業を実施する 1 年生の心の発達・健康に関しての実態を捉えることができた。5 時間の授業を通して、心の発達や心の健康について知り、自己肯定感やストレスへの対処についての変容を比較し実践力へのつながりを検証する。

(3) 心の発達・健康について

① 知的機能、情意機能、社会性の発達

心は知的機能、情意機能、社会性などの精神機能の総体としてとらえられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達するものである。

知的機能には、認知、記憶、言語機能、判断などがある。情意機能には感情や意思がある。それらは生活経験や学習により発達する。

社会性は生活経験や学習などの影響を受けながら変化し自立しようとする傾向が強くなる。

② 自己形成

中学生期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになる。自己は様々な経験から学び、悩んだり試行錯誤を繰り返しながら社会性とともに確立していく。その発達には個人差がある。

③ 欲求やストレスの対処

欲求には生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があり、人間はこれを満たそうとして行動するが、欲求は必ずしも満たされるとは限らない。しかし欲求に適切に対処することによって精神的な安定が図れる。

ストレスとは外界からの様々な刺激に対する防衛反応であり、心身に負担がかかった状態を意味する。ストレスへの適切な対処の仕方には、相談できる人をもつこと、コミュニケーションの方法を身に付けること、体ほぐしの運動等でリラクゼーションの方法を身につけること、趣味をもつことなどいろいろな方法があり、自分にあった対処法を身につけることが大切である。心身の発育・発達に伴い、欲求も複雑多様化し、ストレスを感じることも多くなるが、欲求が生じたり、ストレスを感じることは自然なことである。個人にとって適度なストレスは精神発達上必要なものであり、その対処の仕方が大切である。特に中学生期は成人に達するまでの移行期に当たり、身体的変化や精神的動揺の著しい時期にあたるため、欲求やストレスが多くなり、そのために反社会的、非社会的行動に走ったり、逃避的行動が見られる。そこで欲求やストレスに適切に対処することが大切である。

④ 心身の調和と心の健康

欲求やストレスの適切な対処により心の健康が保たれるとともにこれらの適切な対処の仕方に応じて、精神的、身体的に様々な影響が生じることがある。心の健康を保つには、自己や他人に対する理解を深めて、欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことが大切である。

2 研究内容 2

(1) 情報機器の効果的活用

① 情報機器とその特徴・効果

情報機器とは、コンピュータやデジタルカメラ、ビデオカメラやプリンター、スキャナ等パソコン周辺機器を総称している。

教育現場においても生徒の興味・関心を高め、学習指導の効果を高めるねらいで活用されている。教育における情報機器の活用は教具としての使用とも捉えることができる。パソコンを生徒に個別に使用させ、学習用具として使用する方法や教師がコンピュータを利用して視聴覚教材を提示する方法等である。

② 今回の検証授業においての活用方法

全ての検証授業において、ノート型パソコンとプロジェクターを接続し、パソコンのパワーポイントで作成したスライドを各普通教室の前面の角に天井から下ろし使用できるスクリーンに照射し使用した。教卓をスクリーン横に設置し、スクリーン面を指示棒で指しながら説明を行った。

③ パワーポイントの特徴・効果

実際に授業で活用してみて、このように捉えている。

ア 生徒の視覚にうったえる資料提示、説明ができるため、生徒の興味・関心を引き付け、授業を進めることができる。

イ 提示する資料を効率よく表示ができ、時間を効果的に使うことができる。

ウ 提示する図や文字を大きく表示することができる。

エ 提示する文字や図を動きをつけて、一つ一つ表示できるので、説明を効果的に行うことができる。

オ 事前に準備が出来る。あらかじめ授業の流れに沿ってスライドを並べていれば、計画した流れで授業を進めるガイド役も果たす。また、同じ流れで繰り返し、他の学級でも授業を進めることができる。

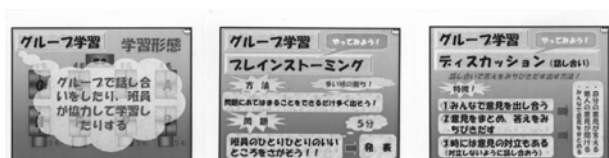
カ 作成・手直しが容易にできる。

④ パワーポイント教材の作成

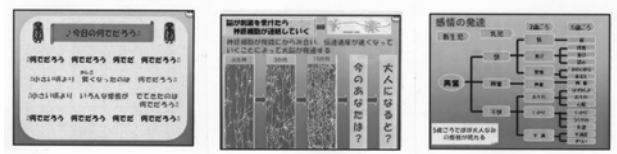
各授業においてパワーポイントのスライドを使用し授業を進めていくため、授業のねらいや流れにそってスライドを自主作成した。

作成したスライド（※各授業から3枚を抜粋）

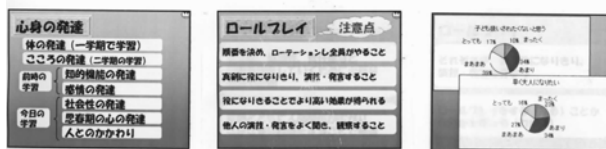
第1時 オリエンテーション（スライド13枚）



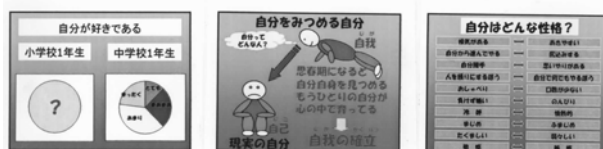
第2時 考え感動し、決断する心（スライド15枚）



第3時 人とかかわり（スライド9枚）



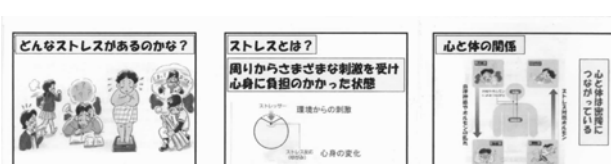
第4時 自分らしさ（スライド11枚）



第5時 欲求とその対処（スライド6枚）



第6時 ストレスとその対処（スライド6枚）



作成において留意した点は以下の通りである。

ア スライドは必要なところ、大切なところに絞って作成。（10枚以内が適当と思われる）枚数が多くなりすぎると、展開が速くなりすぎるため。

イ 一枚のスライドになるべく多くの情報量を盛り込まない。重要事項は多くて2つ程度に抑える。

ウ 生徒の視覚にうったえる図やイラスト、グラフなどをできるだけ作成すること。教科書やノートのイラストや資料等はスキャナで取り込んで簡単に提示することができる。

エ 生徒の視覚にうたえ、説明をわかりやすく

するために動き（アニメーション）を効果的に取り入れる。アニメーションは文章の提示においては目の動きに合わせて左から右に文字が出るように設定すると自然な動きで疲れずに読める。

アニメーションはできるだけ派手な動きは抑え、同じ動きを使い、大切なところで動きを変え、興味を引くようにする。

オ 文字は生徒が読みやすいように大きめにつくる。
30 ポイント以上がよい。

文字の色使いはできるだけ少なくすること。主に黒と赤を使用。青、白抜きも場面に応じて使う。背景との色使いで文字がはっきり見やすいように作成。重要な部分に赤を使用する等パターン化するとよい。

(2) 教材・教具の効果的活用

① 各教材・教具の活用法について

ア ワークシート

各授業で1枚のワークシートを作成。

○ ねらいと効果

- ・授業のねらいにそって作成でき、ワークシートにそって授業を進めることができる。内容の定着や理解を図れる。
- ・授業の自己評価や感想を記入させることで、生徒が学習を振り返ることができる。
- ・生徒の自己評価を確認し、データを集計・分析することによって、教師が事後指導や次の授業に生かしていくことができる。

○ 作成のポイント

授業の中で考える時間、活動する時間を長くとれるようにするため、書き込む量ができるだけ少なくすむよう作成した。

単に知識をまとめることに重点をおくのではなく、自分の事として捉え、今後の生活にどう結びつけていくか考え、ワークシートに自分の考えを記入させることで、実践力につながるのではないかと考え、自分の生活に照らし合わせた書き込みを多くし、生活の中での実践化につながることを目指した。

第4時「自分らしさ」（表面）

1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

自分らしさ（教科書P16～17、ノートP16～17）
学習の○ 中学生期の心の発達について理解する（自我の発達）
ねらい○ 自分を知り、自分らしさの書きかたについて理解する。

♪今日の何でだろう♪

♪ 何でだろう 何でだろう 何でだ 何でだろう♪

♪ 自分が（ ） 何でだろう♪

♪ 自分が（ ） 何でだろう♪

♪ 何でだろう 何でだろう 何でだ 何でだろう♪

あなたの考え（ ）

班（ ）

まとめ（ ）

1. 「わたしは～」で始めて、自分について説明をする文を8通り書いてみましょう。その中から、これを除くと自分らしさがなくなってしまうものに印（✓）をつけてみましょう。（左の（ ）に）
（自分の今のこと、好きなこと、など）
（ ）（ ）①わたしは
（ ）（ ）②わたしは
（ ）（ ）③わたしは
（ ）（ ）④わたしは
（ ）（ ）⑤わたしは
（ ）（ ）⑥わたしは
（ ）（ ）⑦わたしは
（ ）（ ）⑧わたしは
（自分の性格的なこと）
（ ）（ ）⑤わたしは
（ ）（ ）⑥わたしは
（ ）（ ）⑦わたしは
（ ）（ ）⑧わたしは

2. 1の説明文で、長所には○、短所には△をつけてみよう（中央の（ ）に）

3. 理想の自分を文にしてみよう。
①わたしはもっと になりたい
②わたしはもっと になりたい
③わたしはもっと になりたい
④わたしはもっと になりたい

第6時「ストレスとその対処」（裏面）

2. ストレスに対処するにはどんな方法がありましたか。

3. あなたのストレスの対処のしかたはどうでしたか。今日の学習を終えて、これからストレスに対してどのようにしたいと思いましたか。

4. 今日の授業の感想を書いてみよう。

5. 自己評価をしてみよう
（A/よくできた B/まあまあできた C/あまりできなかった D/ぜんぜんできなかった）
1. ストレスとその対処について進んで学習することができたか。（意欲）（ A B C D ）
2. もっと「知りたい」「もっと調べたい」と思うことがあった。（興味・関心）（ A B C D ）
3. ストレスとその対処について考え、まとめることができたか。（思考・判断）（ A B C D ）
4. ストレスとその対処について十分理解できたか。（知識・理解）（ A B C D ）
5. 友だちと助けあって、学習できた。（協力）（ A B C D ）
6. 今日学習したことは、これからの生活に生かしていけるだろう。（実践力）（ A B C D ）
7. 今日の授業は楽しかったか。（ A B C D ）

今回自主作成した。市販のA3のシール式のマグネットボード用紙を厚紙に貼り付け、裏にマグネットシートを貼り、黒板への貼り付けが簡単にできるようにした。各班で2枚ずつ使用できる枚数を作成した。

○ ねらいと効果

各班一斉に話し合いをし、記録する事ができ、効率的に学び合いを促すことができる。班で記録したものを一斉に黒板に表示することができ、班での話し合いを全体に紹介し、学びを広げる事ができる。

○ 使用法

ディスカッションやブレインストーミングで班の話し合いの結果や個人の考えを専用のマジックペンで書きこみ使用したり、付箋紙を使ったブレインストーミングの貼り付け用の台紙として使用。

ウ 指示棒

パワーポイントをスクリーン照射した場合に指示棒を使って指し示したり、生徒がディスカッションやブレインストーミングの結果を黒板に貼り付け発表する際に一つずつ指し示したりする時に使用した。生徒に見るべきポイントを示せるということで効果的な教具である。

エ タイマー

時間をセットし黒板に貼り付け、時間になると音で知らせてくれる。ブレインストーミングやディスカッション等の班での活動時に前もって時間を示し、セットすることで時間の管理が効果的にできる。常時使う事で、生徒も時間に合わせて活動できるようになる効果もある。

オ 付箋紙

ブレインストーミングで個人の考え等を記入する用紙として使用。書いたものを台紙代わりの班のホワイトボードに貼り付け、その後の分類作業の際、簡単に剥がしたり貼り付けたりの作業ができる。今回の使用の際は班員の一人一人の付箋紙の色を違うものにしたことで、貼り付け作業が

終わった際に個人の特徴がわかりやすくて効果的であった。

カ マグネットシート

今回は班名を書いたマグネットシートを多用した。その他にも学習のねらい等の諸資料を黒板に貼り付ける際に効果的に活用できる。

(3) 学習形態の工夫

意欲的に学び合う授業をつくっていくためには、教師が意図して授業形態を工夫することが大切である。グループ学習は学び合いを効果的に創りだしていける授業形態だと言われ、学び合いを創り出す授業づくりでよく使われている学習形態である。その際に重要なことは、グループ学習の効果を認識し、学習過程に応じて適切に取り入れることである。

① グループ学習の効果

- ア 意見や経験の交換
- イ 共通課題の発見
- ウ 発見的な思考の促進
- エ 深い理解への準備
- オ 助け合い学習の促進
- カ 相互評価の促進
- キ 全員参加の促進
- ク 子どもの主体性の促進

② グループ学習実施の際の留意点

- ア 人数を4・5人とする。(最も効果的な人数)
- イ 全班員に班の中での係を与える。
- ウ 班員同士の人間関係に配慮し、班編成する。編成後の人間関係にも気を配る。

③ 今回取り入れた学習形態

ア ディスカッション

答えを導き出す話し合い方法である。グループ学習においてよく使われる。学級全体での話し合いや、一斉指導の授業ではなかなか意見を出

せなかったり、発言できない生徒も少人数でのディスカッションにおいては発言しやすいという効果がある。

ディスカッションは答えを導き出す話し合い方法なので時には一人一人の意見の違いや対立も起こりうるが、意見をまとめないといけないため、班で協力し学び合う姿勢が育つものと考ええる。

イ ブレインストーミング

アイデアを多く出すための話し合いの手法としてよく使われている。個人の意見は批判・否定してはいけないというルールがあるので自由な発想で多くのアイデア・発言を出す事ができる。授業においては班で各個人の意見をホワイトボードに記入させる方法や個人の考えを付箋紙に書かせ、班でホワイトボード等にまとめる方法がとれる。

保健の授業においては、「あなたがやったことのある（知っている）ストレスの解消法について一個でも多く出しなさい」といった課題に対して付箋紙に書かせるという方法が取れる。そのような方法をとると短時間で多くの事例をあげることが出来、一斉に黒板に貼り付けることでより高い効果を得ることができる。

ウ ロールプレイ

ある場面設定のもと生徒や教師が役割を演じたり、見たりして学ぶ方法である。ごっこ遊びに通じるので楽しく行なうことができる。

ロールプレイにおいては場面の設定が大切になる。実際の生活に起こりうる場面設定を行なうと、その場면을疑似体験することができ、問題点の解決方法を考える学習にもなる。また、現実はその場面に遭遇した場合には冷静に対処できないことにおいても、安全でコントロールされた環境の下で行なうことで落ち着いて考え、対処する方法を考え学習することができる。

保健の授業においてはストレスを抱え相談する側とされる側とのロールプレイや友人間のトラブル時の会話といった場面設定でのロールプレ

イが可能である。

(4) 授業の導入の工夫

授業の導入はとても大切である。導入がうまくいくと生徒を授業に引き込み、展開にうまく結びつけることができる。その方法は 20 種類を越えるとも言われている。授業のならし運轉的な方法。授業全体の流れをつかむための方法。授業内容について考えさせる方法。生徒の気分をほぐすための方法など様々である。今回はその導入方法の工夫を試みた。

○ ギターと替え歌による問題提示による導入

二つの指導効果を考えている。一点目は生徒に好まれていない保健の授業を楽しく取り組ませることである。二点目は導入でその授業の内容についてギター演奏と替え歌で出される問題を通して、その日の授業内容について考えさせ、一気に授業に引き込むことである。お笑いコンビのテツアンドトモの「何でだろう」という曲を使い、その日の学習内容を考えさせるような替え歌をつくった。

○ 替え歌による問題提示の内容と取り組み

① 第1時間目オリエンテーション

(問題提示→ディスカッション)

♪天気もいいのに保健をするのは 何でだろう

♪体育がいいのに保健をするのは 何でだろう

② 第2時 考え、感動し、決断する心

(問題提示→ディスカッション)

♪小さい頃より賢くなったのは何でだろう

♪小さい頃よりいろんな感情ができたのは何でだろう

③ 第4時 自分らしさ

(問題提示→個人で考える)

♪自分が好きだという人が少ないのは何でだろう

♪自分が好きじゃないという人が多いのは何でだろう

④ 第5時 欲求とその対処

(問題提示→個人で考える)

♪お腹がすいたら食べたいのは何でだろう
♪やりたいことができないといらいるのは何でだろう

⑤ 第6時 ストレスとその対処
(問題提示→個人で考える)

♪緊張するとお腹がいたくなったりするのは何でだろう
♪運動すると心がすかっとするのは何でだろう

3 研究内容3

(1) 生徒の自己評価について

自己評価の本来の意義は自己の内面を深く見つけ、生活面や学習面のみならず、生涯にわたって自己について反省と改善をうながすための機能である。

授業における生徒の自己評価には本来の自己評価の意義のみならず多くの効果が期待できる。

一つは自己評価をする生徒自身のためになるということである。授業後に自己評価を行うことによって、その日の学習を振り返ることができ、反省し、次時の学習の改善につながるという効果がある。そして、毎時間保健学習に関する3つの観点(関心・意欲・態度、知識・理解、思考・判断)の自己評価を継続し行なわせることによって、生徒に授業に臨む上での大切な観点が自然に意識されてくるものと考えている。

また生徒が行う自己評価は教師が行う学習指導にも非常に効果的に活用することができる。

一点目は生徒を指導していく上での活用である。各授業を終えて、生徒が自己評価したワークシートをチェックすることによって、授業に対して消極的であったり、不満をもっていたり、班の活動がうまくいっていないこともわかる。また時には、自己評価が非常に甘すぎたり、厳しすぎたりする生徒もいる。これらの情報を生徒の自己評価を通して、早めに知ることができ、生徒との相談や指導等を通していち早く適切な対応ができるということである。

教師が活用する二点目は生徒が行う自己評価を分析・考察することによって教師がその授業を振り返り、反省・改善していく上での資料にできるという点である。教師は日頃、自分の授業を客観的に評価する機会が少ないが、生徒の自己評価を継続し集

計・分析・考察することによって自分の授業を捉える客観的なデータになり、授業創りや授業の改善に役立つものとする。

また、仮説を立て授業を行った際には仮説が検証されたかを判断する資料としても使うことができる。

ワークシートの自己評価の項目と評価方法

(Aよくできた Bまあまあできた
Cあまりできなかった Dぜんぜんできなかった)

1. 進んで学習することができたか(意欲)
2. もっと「知りたい」「調べたい」と思うことがあったか(興味・関心)
3. 考えまとめることができたか(思考・判断)
4. ～について十分理解できたか。(知識・理解)
5. 友だちと助け合って学習できたか(協力)
6. 学習したことは生活の中に生かしていける(実践力)
7. 授業は楽しかったか(授業評価)

(2) 単元終了後のアンケートの実施

①「心の発達・健康」に関するアンケート

ア 調査目的

検証授業前に行った調査を再び行い、検証授業前との比較、考察を行う。

イ 調査方法

(ア) 期間：平成19年1月23日～1月29日

(イ) 対象：宮里中学校1年生140名

(ウ) 調査の結果と分析・考察

② 学習指導法に関するアンケート

ア 調査目的

今回の検証授業で実施した学習指導法を生徒のアンケート調査から分析を行い、仮説の検証を行う資料とする。

イ 調査方法

(ア) 期間：平成19年1月23日～1月29日

(イ) 対象：宮里中学校1年生140名

Ⅶ 指導の実際

保健体育科指導案

沖 縄 市 立 宮 里 中 学 校
平成 19 年 1 月 11 日 (木) 5 校時
1 年 3・4 組 男子 36 名
授 業 者 仲 宗 根 賢

1 単元名 心身の発達と心の健康

2 単元目標

- (1) 身体の機能は年齢とともに発達することを理解させる。
- (2) 思春期には生殖機能が成熟すること、こうした変化に適切な行動が必要となることを理解させる。
- (3) 精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること、思春期には自己の認識が深まり自己形成がなされることを理解させる。
- (4) 心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、心身の調和を保つことが必要であること、また、心と体は密接に関係していることを理解させる。

3 単元について

(1) 教材観

保健学習は生涯にわたって健康な生活を送っていく上でとても大切な教科だと考える。1 学年の保健の学習においては、心身の発育・発達について科学的に知る事によって、発育・発達の著しい思春期の自らの生活をよりよく送っていくための力になるだろう。

現代のストレス社会の中、中学生においても、さまざまな心の問題にうまく対処できずに不登校や非行に走る生徒もいる。本研究の学習単元である「心の発達」「心の健康」の学習はこのようなストレス社会を生き抜いていくためにもとても大切な学習だといえよう。学習が定着し、実践力がともなえば、これからの生活を前向きな考えで積極的に取り組んだり、大きな心の問題になる前の予防法的な対処力がついていくことも期待できる教材である。

(2) 生徒観

1 学年の生徒は全般的に明るく、素直な生徒が多い。学習に対する意欲もあり、全般的に授業態度も良好である。反面、教師側がうまく導いていかないと、受け身の授業態度の生徒も多く、授業中の教師の発問に対しては、限られた一部の生徒の発言になる傾向もある。

生徒の保健学習に対しての意識は保健学習は大切だととらえている生徒が 74%と多くいるのに対して、保健学習に対して意欲的に取り組んでいる生徒は 51%、保健学習が好きだという生徒が 47%と少なく、大切だと思うが好きじゃないという傾向がある。またストレスについては 42%の生徒がストレスがあると答えているが、ストレスの対処法については 62%の生徒が対処することがうまくできないと答えている。友人間のかかわりかたを見てみると、軽はずみな発言などで他人を傷つけたりする生徒もいる。また、一部ではあるが人とのかかわりが苦手で学級の一部の生徒とのかかわりしかできない生徒もいる

(3) 指導観

従来から生徒が意欲的に取り組まない保健学習を、生徒が楽しく意欲的に取り組み、実践力につなが

る学習指導を目指したい。

そのために、グループ学習を積極的に取り入れ、ディスカッションやブレインストーミングやロールプレイなど学習形態をかえて取り組ませることにより、一人一人の生徒が授業に参加し、活動し、自分の意見を言い、他の生徒の意見を聞き、学びを実感できるようにさせたい。授業の進め方においては、一人一人が考える授業にしたい。そのため、導入でギター演奏と歌による問題提示を行い、生徒の興味・関心をひきつけるとともに、その授業の内容について考えさせ、一気に授業に引き込みたい。また、教科書は授業後半まで開かず、パソコンのパワーポイントを使い、スクリーンに映写することによって、資料の提示をしたり、説明を行いたい。考える時間、活動の時間をできるだけ多くとる学習にするため、各時間ごとにワークシートを作成し、自分の考えた事やわかったこと、自分の生活につながるようなことを考えさせ、記入させたい。またワークシートの最後では、自分の生活につながる感想を書かせ、自己評価を行わせることによって、授業の振り返りを行なわせ、健康な生活を送る実践力をつけさせたい。

4 研究仮説との関わり

教 材	手 だ て
オリエンテーション	単元前のアンケートの実施、パワーポイントでの説明、自主作成教材の活用、ブレインストーミング、ギターと歌での問題提示、ディスカッション、
考え、感動し、決断する心	ギターと歌での問題提示の導入、パワーポイントでの説明、自主作成教材の活用、ディスカッション
人とかかわり	パワーポイントでの説明、自主作成教材の活用、グループでのロールプレイ、1対1でのロールプレイ、アンケートの授業での活用
自分らしさ	ギターと歌での問題提示の導入、ディスカッション、パワーポイントでの説明、自主作成教材の活用、アンケートの授業での活用、自分の良さに気づくための班員同士のいいところ探し
欲求とその対処	ギターと歌での問題提示の導入、パワーポイントでの説明、自主作成教材の活用、付箋紙を使ったブレインストーミング、班での欲求と欲求不満時の行動の分類作業
ストレスとその対処	パワーポイントでの説明、ギターと歌での導入、自主作成教材の活用、付箋紙を使ったブレインストーミング、代表でのロールプレイ、1対1でのロールプレイ

5 学習過程と学習内容

	時間	学習項目	学習内容
一学期で既習	オリエンテーション	保健学習について	・学習の内容について知る。 ・学習の進め方について知る。
	第1時	体の発育・発達	・体の各器官の発育・発達の時期、性差や個人差について ・体を望ましい発育・発達させるために毎日の生活を健康的なものにしさまざまな経験をすることがたいせつであること。
	第2時	呼吸・循環機能の発達	・肺胞数の増加や肺容積の増大、心容積の増大や心臓の収縮力の増強などによって呼吸・循環機能が発達すること。 ・中学生の時期は呼吸循環機能を発達させるのに適した時期であること。適度な運動によって呼吸・循環機能が発達すること。

一学期で既習	第3時	性機能の発達 (1)	・性機能が発達するしくみ, 成熟にともなうからだの変化 ・女子では思春期になると月経が見られるようになること。 (排卵と月経のしくみ)
	第4時	性機能の発達 (2)	・男子では思春期になると射精が見られるようになること。 (射精のしくみ) ・排卵や月経, 射精が起こるようになったということは妊娠可能になったということでおとなの体に近づいているしるしであること (受精・妊娠のしくみ)
	第5時	性とうきあうか	・思春期には性成熟に伴って, 性意識に変化が起こること。 ・異性の尊重。性情報への対処など, 性に関する適切な態度や行動の選択, 責任ある行動が必要であること。
検証授業	オリエンテーション	・グループ学習の進め方 ・アンケートの実施	・グルーピング, 役割分担, 学習の事前アンケートの実施 ・ブレインストーミング, ディスカッションの進め方
	第6時	考え, 感動し, 決断する心	・知的機能や情意機能はさまざまな経験や学習によって発達すること。 ・心の働きは脳で営まれており, 思春期は脳の発達の最後の時期にさしかかる重要な時期であること。
	第7時	人とのかかわり	・社会性は, 年齢とともに人間関係が広がり, さまざまな経験することによって発達すること。 ・思春期になると, 大人に保護されて依存していた状態から抜け出して, 自立へと歩み始めること。 ・思春期になるとより深い友達づき合いを望むようになること。また, 友達とのつき合いを通じて, 自分自身を深く見つめたり, 人とのつき合い方を学んでいったりすること。
	第8時	自分らしさ	・思春期には, 自己の認識が深まり, 自己形成がなされること ・自己を形成していくためには, ありのままの自分を受け入れるとともに, さまざまな経験をし, いろいろな人とのつき合い, さまざまな生きかた, 考えかたに触れることが大切であること。
	第9時 (本時)	欲求とその対処	・人間は欲求を満たそうとして行動するが, 欲求は必ずしも満たされとは限らず, 欲求不満を感じることも多いこと。 ・欲求に適切に対処することによって, 心の安定が図れること
	第10時	ストレスとその対処	・ストレスには適切に対処することがたいせつであること。 ・心と体は密接に関係していること。 ・中学生の時期は欲求不満やストレスを感じる事が多くなりがちであるが, 心の健康をたもつためには心身の調和を保つことが大切であること。

6 評価規準

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
中学生の時期の心身の機能や心の発達に伴う変化に気づき、健康な生活を送るための課題を持つとしたり、その解決方法を見つけようとしたりする。	心身の機能の発達や、心の健康などについて、自分のことや日常生活にあてはめ、課題を見つけたら、課題解決の方法を考えることができる。	思春期におこる心身の変化はだれにでも訪れる重要な節目であることを理解し、その科学的な知識を身につけている。

7 本時の学習指導

(1) 学習内容 欲求とその対処

(2) 本時のねらい 欲求の種類を理解し、適切な対処のしかたについて理解する。

(3) 本時の仮説

- ① グループ学習でブレインストーミングを行わせ、自分の欲求や欲求不満時の行動を付箋紙に書かせ、自分の事を多くあげることで、欲求の種類と欲求の適切な対処について理解が深まるであろう。
- ② ワークシートのまとめで欲求不満が起こったときに自分の行動や対処法について振り返らせ、今後の対処法を考えさせる事で、欲求への対処法の理解が深まるであろう。

(4) 本時の展開

	学習のねらいと活動	予想される生徒の反応	☆留意点 ★手立て □情報機器◇学習形態の工夫
導入 5分	○前時までの振り返りと本時の学習活動の進め方を確認する。 ○今日の何でだろうの歌を聞き考える。 ・お腹がすくと食べたくなるのは何でだろう？ ・やりたいことができないといらいらするのは何でだろう？	・今日の何でだろうは何か？ ・おお！今日もギター弾くんだ！楽しみ ・「は？お腹がすいたら食べたくなるのは当たり前さ」 ・「ん？当たり前さ、やりたいことができなかったらいらいらすさあ。でも何でかな？」	◇ギターと歌による授業の導入 ★ギターと歌で一気に授業に引き込み、考えさせる。 □PCのパワーポイントを使って、プロジェクターでスクリーンに表示、スライド①（何でだろう） ◇グループでの学習

展 開 35 分 (前 半 15 分)	○ブレインストーミング (欲求) (5分) ・ 欲求 (～したい, ～がほしい, ～になりたい) というのをたくさんあげてみよう (個人で付箋紙に書く) ・ 班でホワイトボードに貼り付ける ○欲求について知る。 (スクリーンを見て) (5分) ・ ～したい・なりたいが欲求ということを知る ・ ワークシートにまとめる ・ 欲求の種類と段階 (発達) について知る ・ 欲求が大きく生理的欲求と社会的欲求で分けられることを知る。 ○自分の欲求の段階を分類・貼り付け作業を通して知る。 (5分) ・ 図に自分の欲求を貼りつける作業をし, 自分の欲求の段階を知る。 ・ 分類作業を終えたものを黒板に貼り付け, 見てみる。	・ 食欲や活動欲求が多くでる ・ 前時の「自分らしさ」でワークシートに書いたので理想の自分も多く出てくる。 ・ 愛情・所属の欲求と社会的承認欲求も少ないがでる。 ・ 安全欲求はあまり出ない。 ・ あまり書けない生徒も出る。 ・ 欲求って聞いたことあるよ。 ・ 欲求＝性的欲求 (いやらしい事) と思っている生徒も多いうるだろう。 ・ 安全の欲求から分かれるんじゃない? 下の二つは命と関係しているから ・ 社会的欲求の3つはどちらに分けたらいいかわかりにくくて簡単には分けることができない。 ・ 食欲, 活動欲求が多くなる。 ・ 安全欲求があまり出ない。	□スライド② (欲求のイラスト) ★前時の「自分らしさ」の授業で書いた理想の自分のことも, 思い出さる。 ◇ブレインストーミング ★班でできるだけ多く出すように仕向けることで個人の事を多く出させる。 □スライド② (アニメーション➡欲求) □スライド③ (マズローの欲求段階説) ☆ひとつずつ表示し説明を加える。 ★欲求の段階をスライドを通して大きく二つに分けることをわからさせる。 ★発達段階の表を各班の分準備し, 欲求の分類と貼り付けがスムーズにできるようにする。 ★他の学級が貼り付けた例を示す。 ☆班で分類し黒板に貼り出した表を見せ, 感想を言わせる。 ☆安全欲求については説明する
	○欲求不満について知る。 (5分) ・ スクリーンを見る ・ 欲求不満時の行動例を知る	・ 具体的な場面と行動の例を示さないとイメージすることが難しい。 ・ 自分がとった事のある行動には反応を示す。	□スライド④ 欲求不満 ☆スクリーンに注目させる。 ★イメージしやすい様に生徒が実感できるような例と場面をいくつか示す。 □スライド⑤ 欲求不満時の行動例と場面例 ★生徒が自分のこととしてイメージできるような場面を5つ示す。

（後半20分）	○ブレインストーミング（5分） ・欲求がかなわなかったときにあなたがとった行動を場面例に対してと個人の体験を思い出し書いてみよう。（個人で付箋紙に書く） ・班でホワイトボードに貼り付ける。 ○欲求不満が起こったときに見られる行動について知る。名称等（5分） ○自分の欲求不満の時の行動はどれにあたるかを用意された用紙に分類し、貼り付ける。（5分） ・各班が分類を終わったものを見て、感想を言う	・八つ当たりした。 ・別のことでがまんした。 ・あきらめた。 ・もっと頑張ってみる。 ・あまり書けない生徒もいる ・自分がとった事のある行動には反応を示す。 ・分類した際、適応行動は少ない。 ・生徒の感想と 「攻撃が多いさあ」 「代償も多いなあ」 「適応行動が少ないなあ」	★グループで取り組ませると、教え合って書けるだろう。 ☆机間指導を行い、うまく書けない生徒にアドバイスを与える □スライド⑥欲求不満時の行動 ☆ひとつずつ表示し説明を加える。 ★スライド⑥で説明したイラストのある大きな用紙を準備し、スムーズに分けることができるようにさせる。 ☆分類の終わったものを、代表で一斉に前に出て、みんなに表示し、生徒に見せ感想を聞いてみる。 ★生徒との発問と受け答えのやりとりの中から今後の対処の仕方の変容に結びつけられるようにする。
まとめ10分	○これまでの自分の欲求不満の対処法を振り返ってみる。そして今後どう対処していくかを書いてみる。（5分） ○今日の学習をまとめる。（5分） ・学習の感想 ・自己評価 ○代表で発表 ○学習のまとめ ○次時の確認 ○終わりのあいさつ	・僕はこれまで欲求不満の時には人に当たったりすることが多い事がわかった。次からは気をつけたい。 ・今日の授業でいろんな欲求があることがわかった。自分を高められるような欲求を持って頑張れるようになりたい。	☆今日の授業を振り返って、ワークシートに記入させる。 ☆うまくまとめることができるよう机間指導を行う。 ☆代表で発表させ、うまくまとめる。 ☆欲求不満時のいろいろな行動や心理は人間が心の安定をはかる上で誰にでもあることで、一時的な諸行動を経て早めに適応行動に向かうことができるようまとめる ☆次時の予告をし、次につなげる。

8 本時のパワーポイント・スライド画面

① 導入 (替え歌問題をを通して考えさせる)

🎵 今日の何でだろう 🎵

🎵 何でだろう 何でだろう 何でだ 何でだろう 🎵

🎵 お腹がすいたら食べたくなるのは何でだろう 🎵

🎵 やりたいことができないと
いろいろするのは何でだろう 🎵

🎵 何でだろう 何でだろう 何でだ 何でだろう 🎵

② 欲求について知る

欲求を満たそうと行動する
(行動力のもと)

欲求

よっきゅう

③ 欲求の種類と段階について知る

欲求の種類と段階

社会的欲求

自己実現欲求 自分の能力を発揮したい

社会的承認欲求 認められたい

愛情・所属の欲求 愛し、愛されたい

生理的欲求

安全欲求 自分の身(命)を守りたい

生理的欲求 食べたい・飲みたい・休みたい
眠りたい・動きたい・生殖の欲求

生命を維持する

④ 欲求不満について知る

欲求不満

よっきゅう ふまん

フラストレーション

⑤ 欲求不満になったときの行動を考えてみる

欲求不満になったときの行動 例

部活でレギュラーになりたい → なれなかった

○落ち込む もう考えない ○あきらめる もう努力しない

○あきらめずに もっと頑張る ○いらいらして 他人にあたる

○監督のせいにしてうらむ ○別の好きなことで気を紛らわす

こんな場面 あなたならどうする?

- 部活でレギュラーを目指しているがなれなかった
- 勉強をがんばっているのに親が認めてくれない
- 楽しみにしているゲームを親がさせてくれない
- 自分が食べるつむりのケーキを弟に食べられた
- 好きな人に告白したのに振られてしまった

その他にもあなたが欲求不満になった時の行動を思い出して書いてみよう

⑥ 欲求不満になった時の行動について知る

欲求不満になったときに見られる行動

適応行動 欲求実現のために努力する

代償 気持ちを切り替え、別のものでまぎらわす

抑圧 実現が困難な欲求をじっと我慢する

攻撃 周りの人や自分を攻撃する

逃避 解決を投げ出して現実から逃げる

投射 他人のせいにする

9 公開検証授業の様子

写真

授業の導入。ギターと歌で、今日の「何でだろう」歌を聞きながらスクリーンから出てくる歌詞に注目！

写真

スクリーンで指示棒を使って説明している様子。みんなスクリーンに注目している

写真

公開検証授業。みんなスクリーンに注目し、集中して説明を聞いている。

写真

公開検証授業では校長先生も生徒と一緒に学習。中学生に戻り、やりたいことができなかったら？

写真

欲求不満時の行動を個人で付箋紙に書き、各班で表に分類作業をした。何が多い？「攻撃」？「逃避」？

写真

さあ！今日の学習のまとめだ。これからの生活ではどうしたい？今日の授業はどうだった？自己評価は？

10 検証授業研究協議会

平成 19 年 1 月 11 日（木）15 時～16 時

宮里中学校 会議室にて

参加者 沖縄市立教育研究所 普天間（指導主事），仲宗根，當眞，大城（研究員）

宮里中学校職員 仲松（校長），新垣（教頭），比嘉（保健体育科）

(1) 授業者の感想

- ・検証授業の開始時は視聴覚機器の効果的活用ということでパワーポイントに頼りすぎてスライドの枚数が多くなり，急ぎ足の授業になっていた。その後からは枚数を絞って生徒の活動場면을多く取る事を意識した授業創りをしてきた。それで生徒もグループでの活動を活発にやるようになってきたように思う。パワーポイントの良さは図や言葉での説明に動きをつけて一つ一つ表示することができることだと思う。そのため生徒の興味を引き付け，視線をスクリーンに集中させることができる。授業で使用してみて効果的な指導ができていると感じている。
- ・本時の学習では初めて付箋紙を使って，一人一人に書かせるといった方法の授業をやってみたが，前時まで使っていたホワイトボードへの記入の方法に比べ，多くの事が書けるようになったと思う。付箋紙を使つての指導は効果的だったように思う。
- ・導入での歌による問題提示はここまで 5 時間のうち 4 時間行っているが，定着しつつあって，生徒が楽しみにしていて効果は出ているように思う。
- ・授業者としては，視聴覚機器の活用や授業形態の工夫をした授業を 5 回にわたってやってきて，以前と比べて，生徒は楽しそうに，活発に授業に参加している実感をうけている。また，各時間に行っている生徒の自己評価からも，そのような数値が出ているので，授業者としては個人的に満足している。

(2) 質疑応答，研究協議

- ・ブレインストーミングで使った付箋紙の色は意味がありますか。（普天間）
⇒意味があります。班員の色を全部違う色にしてあります。個人で書き込みをした後に貼り付け用の用紙で分類を行う際に，一人一人の色が違えば，視覚的に特徴が捉えやすいだろうということで，全員違う色にしてあります。（仲宗根）
- ・本時の仮説が多すぎる。本時のねらいは具体仮説にあわせて書いたほうがいい。2 つ程度にまとめて書いた方がいい。（普天間）
- ・導入の歌は生徒は一緒に歌わないのですか。（普天間）
⇒歌で問題提示する方式になっているので，生徒は「今日はどうな内容の何でだろうを歌うのだろう」といった感じで一緒に歌うというより，集中して歌詞を聴き取るといった感じに自然になってきた。（仲宗根）
- ・全体的にいい授業だったように思う。（普天間）
- ・本時の仮説は本時のねらいと直結するような内容を二つくらいに絞って書くこと（校長）
- ・これまで，授業を見て勉強になっている。授業を見ての感想を伝えると，その事が次の授業で改善されていたりして，自分も一緒に授業をやっているような感じがして嬉しい。付箋紙に書かせる方法は効果があるように思う。ホワイトボードに書かせていた時と比べても多くの事がかけているように思う。（比嘉）
- ・導入で進めるのを急ぎすぎている。もう少し考える時間を与えてもよかったように思う。欲求を大きく二つに区切る場面や各班で分類した用紙を黒板に貼り付け，みんなに感想を求めた場面等で，生徒からの発言がもっと出るまでもう少し待ってあげてもよかったように思う。（普天間）
- ・以前から見るのを楽しみにしていた授業であった。日頃，幼稚園生を教えていて，そ

れが中学生になると、このように成長するんだなあという思いで見た。発問した際、答えが出ない場合には幼稚園だと待っている。自分も中学生の頃こんな授業を受けていたら保健の授業が好きになったかもしれないと思った。（大城）

- ・班の中で付箋紙に書いたものを分類し貼り付ける作業の中で、生徒が「へー、お前はこんななんだ」とか他の生徒のものを見て会話がなされ、お互いのよさや考えている事がわかったり自分の事を客観的に見ることができたりして、お互いに学び合っている様子が見られた。（當眞）
- ・進めるのが早いように感じた。同じ内容をもっと時間をかけてできればいいと思った。もったいないように思った。欲求不満時の行動を生徒は適応行動だけが、いいように捉えているような印象を受けた。必ずしもそうじゃないように思う。（當眞）
- ・自分の授業をビデオ撮影し、自分で見てみると、自分の授業が客観的に見えてとても勉強になるのでぜひやってほしい。（教頭）
- ・授業のまとめで代表で発表させた場面では、一人一人をみんなに紹介するような感じで、ぜひ名前をよんであげた方がよかった。（普天間）
- ・前回、授業を見た時はパワーポイントのスライド数があまりにも多すぎて、とても急ぎすぎの授業で生徒の印象にも残らないような授業であったが、今回はスライド数も絞られていてパワーポイントも効果的だったように思う。（校長）
- ・導入の歌での「何でだろう」はとてもいいと思う。他でも使えるように思う。（校長）
- ・5校時は給食後で生徒は眠くなりやすく、授業がとてもやりにくい時間であるが、生徒が集中し、よくがんばっていたように思う。そうさせたのは教師の力である。（校長）
- ・付箋紙を使った授業方法はとてもよかった。

（校長）

- ・本時の学習指導案は細案でわかりやすいが、言葉を簡潔にし用紙2枚にまとめて欲しい。

（校長）

- ・各班での班員同士の話し合いの時間をもっと長くにとって欲しかった。（校長）
- ・まとめの時間で本時のふりかえりをしっかり行ってまとめができていた。また次時の予告もしっかり行えていたので、まとまりのある授業だったように思う。（校長）
- ・授業の最後に、教師がこの授業を通して生徒が頑張ってきたことを評価する場面が欲しかった。生徒が頑張っていたことできるようになったことを評価することも大切である。（普天間）
- ・生徒が欲求不満時に今日学習したことをきくとふりかえるだろうという授業であった。学習した生徒にとっても授業者にとってもいい授業であったように思う。（普天間）

(3) 考察

- ① 本時はグループ学習でブレインストーミングを行わせ、自分の欲求や欲求不満時の行動を付箋紙に書かせた。付箋紙を使ったことで自分の事を多くあげることができていた。また、自分の事だけではなく友達の欲求や欲求不満時の行動も多く知る事ができ、欲求の種類と欲求の適切な対処について理解が深まったと言える。
- ② 本時はまとめでワークシートに欲求不満が起こったときに自分の行動や対処法について振り返らせ、今後の対処法を書かせた。生徒のワークシートには、自分の行動を振り返っての感想や今後の対処法がしっかりと記入されていた。学習したことが単なる知識としてではなく自分の事として捉えることができたことで、欲求への対処法の理解が深まったと考える。また、このように学び合いの学習を通して得た知識は生きた知識となって、今後の生活の中での実践力につながってくると考える。

11 検証授業計画と授業スケッチ

		1年1・2組	3・4組	5・6組	7組
1	グループ学習の進め方 事前アンケート	11月21日(火)・4校時 一回目の授業で不安はあったが、生徒の反応・学習への取り組みは良好であった。授業のはじめの時間にとったアンケートで時間を取られた分、話し合いと発表の時間が短くなってしまった。次回からアンケートは行わずグループ学習に入っていきたい。ギターを使っている問題提示は好評であった。	11月23日(木)・1校時 前時の反省を生かして、アンケートを省いた。しかし、班員のいところ探しで全部の班に発表をさせたことで時間がかかってしまい、後半部分の時間がやや不足したように思う。本時から指示棒やタイマーを使用した。効果的に使えたように思う。	11月24日(金)・1校時 本時3回目の授業ということで、これまでの2回の反省が生かされ、改善されたことで、スムーズに授業が流れ、生徒も活発に学習していたように思う。発表を行う前に発表の基本的な行い方をスクリーンで説明をしたことで、きちんとした発表ができていた。	11月27日(月)・1校時 他のクラスと違って唯一の男女共習学習。男子だけとは勝手が違って、話し合い活動に少し遠慮が見られた。授業後の自己評価からも授業に対しての意欲が少し低い数値となっていた。回数を重ねて、男子のみの授業と変わらないくらいの意欲をもって望めるようにしたいものである。
		11月28日(火)・4校時 時間が足りなかった。前半の説明を長く取りすぎたせいで後半の説明が急ぎ足になってしまった。最後のまとめの時間を10分とったが、その時間でまとめることができない生徒が多かった。次回からはワークシートに記入も説明時と並行し行わせたい。	11月30日(木)・1校時 授業の流れを少し変えてみた。グループでの話し合いを2回に分けて行った。感情の発達についての話し合いでは、知的機能の発達を学んだ後であったため、前時よりいい答えができた。また授業後半で本時学んだことを今後の生活でどうしたらいいか話し合わせたこともよかった。	12月1日(金)・1校時 (第1回公開検証授業)今日は校長・教頭・盛文先生に見てもらった。前時よりパワーポイントが2枚多くなったこともあって、あまりにも急ぎ足の授業になってしまった。参観者からも内容が多すぎて、授業にゆとりがないことを指摘された。次の時間は内容を絞ってゆとりをもって進めたい。	12月4日(月)・1校時 本時の最後の授業であった。前時の反省を生かし、内容を精選し、説明するポイントを絞り、パワーポイントの提示枚数も減らして進めた。これまでと比べてゆとりをもって進めることができたように思える。まとめの時間もゆとりとることができた。
2	考え、感動し、決断する心	12月13日(水)・4校時 前時の反省を生かし、ロールプレイングを代表と教師で演じてもらった。時間が短縮できたのでグループでの話し合いも時間をしっかりとることができた。後半の人の人との関わりのロールプレイも班で楽しそうにやっていた。時間にゆとりがあったのでまとめでは授業全体をふりかきまとめることができた。	12月19日(火)・5校時 本時4回目(最終)の授業。本時で一番、いい流れでできたように思う。前半のロールプレイを見ることを少なめにし、やることに時間をとった。その分班でのロールプレイの時間ができ、各班で楽しそうに取り組んでいた。人のかかわりのロールプレイも楽しそうに取り組んでいた。	12月15日(金)・3校時 50分授業ということで時間にゆとりがあり、班でのロープレ、班での話し合い、個人やみんなで考える時間をしっかりとることができた。授業のまとめでは授業の感想を班の代表にやってもらい、みんなで拍手をして盛り上がった授業であった。	12月11日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。各班で親と子の会話のロールプレイをさせたが、やり方がうまく伝わらず、時間のかかる班がいくつかあり、予定の時間が狂ってしまった。次の時間は今回の7組が考えたせりふを元に代表でロールプレイを行い、班の話し合い時間を多くとらせたい。
		12月19日(火)・4校時 本時2回目の授業。前時の反省を生かし、ワークシートで書く「わたしは～」の部分を二つに分けたことと、性格のとらえ方を示しただけでほとんどの生徒が自分のことを書く事ができた。裏面で友だちからのコメントももらうことができ、自分のよさに気づいて満足した感想が見られた。	12月21日(木)・1校時 本時3回目の授業。45分授業ということで時間的には厳しかったが、性格のとらえ方の例を他学級の生徒のワークシートの記入例を示した事で、生徒が早めを書く事ができていた。前時の1・2組の授業より生徒が学習をきちんとこなしていたように思う。	12月22日(金)・1校時 本時4回目の授業。本時も45分授業ということで、生徒は時間的に厳しかったと思うが何とか学習をこなしていたように思う。感想でも自分のことがわかってよかったという感想が多く見られた。	12月18日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。ワークシートでの自分の性格についての記述のところでは、性格のとらえ方の例を示したものの要領がわからず時間がかかってしまい、最後まで通すことができなかった。次回はいっとわりやすい性格の捉え方を示したい。
3	人のかかわり	12月19日(火)・4校時 本時2回目の授業。前時の反省を生かし、ワークシートで書く「わたしは～」の部分を二つに分けたことと、性格のとらえ方を示しただけでほとんどの生徒が自分のことを書く事ができた。裏面で友だちからのコメントももらうことができ、自分のよさに気づいて満足した感想が見られた。	12月21日(木)・1校時 本時3回目の授業。45分授業ということで時間的には厳しかったが、性格のとらえ方の例を他学級の生徒のワークシートの記入例を示した事で、生徒が早めを書く事ができていた。前時の1・2組の授業より生徒が学習をきちんとこなしていたように思う。	12月22日(金)・1校時 本時4回目の授業。本時も45分授業ということで、生徒は時間的に厳しかったと思うが何とか学習をこなしていたように思う。感想でも自分のことがわかってよかったという感想が多く見られた。	12月18日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。ワークシートでの自分の性格についての記述のところでは、性格のとらえ方の例を示したものの要領がわからず時間がかかってしまい、最後まで通すことができなかった。次回はいっとわりやすい性格の捉え方を示したい。
		12月19日(火)・4校時 本時2回目の授業。前時の反省を生かし、ワークシートで書く「わたしは～」の部分を二つに分けたことと、性格のとらえ方を示しただけでほとんどの生徒が自分のことを書く事ができた。裏面で友だちからのコメントももらうことができ、自分のよさに気づいて満足した感想が見られた。	12月21日(木)・1校時 本時3回目の授業。45分授業ということで時間的には厳しかったが、性格のとらえ方の例を他学級の生徒のワークシートの記入例を示した事で、生徒が早めを書く事ができていた。前時の1・2組の授業より生徒が学習をきちんとこなしていたように思う。	12月22日(金)・1校時 本時4回目の授業。本時も45分授業ということで、生徒は時間的に厳しかったと思うが何とか学習をこなしていたように思う。感想でも自分のことがわかってよかったという感想が多く見られた。	12月18日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。ワークシートでの自分の性格についての記述のところでは、性格のとらえ方の例を示したものの要領がわからず時間がかかってしまい、最後まで通すことができなかった。次回はいっとわりやすい性格の捉え方を示したい。
4	自分らしさ	12月19日(火)・4校時 本時2回目の授業。前時の反省を生かし、ワークシートで書く「わたしは～」の部分を二つに分けたことと、性格のとらえ方を示しただけでほとんどの生徒が自分のことを書く事ができた。裏面で友だちからのコメントももらうことができ、自分のよさに気づいて満足した感想が見られた。	12月21日(木)・1校時 本時3回目の授業。45分授業ということで時間的には厳しかったが、性格のとらえ方の例を他学級の生徒のワークシートの記入例を示した事で、生徒が早めを書く事ができていた。前時の1・2組の授業より生徒が学習をきちんとこなしていたように思う。	12月22日(金)・1校時 本時4回目の授業。本時も45分授業ということで、生徒は時間的に厳しかったと思うが何とか学習をこなしていたように思う。感想でも自分のことがわかってよかったという感想が多く見られた。	12月18日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。ワークシートでの自分の性格についての記述のところでは、性格のとらえ方の例を示したものの要領がわからず時間がかかってしまい、最後まで通すことができなかった。次回はいっとわりやすい性格の捉え方を示したい。
		12月19日(火)・4校時 本時2回目の授業。前時の反省を生かし、ワークシートで書く「わたしは～」の部分を二つに分けたことと、性格のとらえ方を示しただけでほとんどの生徒が自分のことを書く事ができた。裏面で友だちからのコメントももらうことができ、自分のよさに気づいて満足した感想が見られた。	12月21日(木)・1校時 本時3回目の授業。45分授業ということで時間的には厳しかったが、性格のとらえ方の例を他学級の生徒のワークシートの記入例を示した事で、生徒が早めを書く事ができていた。前時の1・2組の授業より生徒が学習をきちんとこなしていたように思う。	12月22日(金)・1校時 本時4回目の授業。本時も45分授業ということで、生徒は時間的に厳しかったと思うが何とか学習をこなしていたように思う。感想でも自分のことがわかってよかったという感想が多く見られた。	12月18日(月)・1校時 本時の1回目の授業であった。ワークシートでの自分の性格についての記述のところでは、性格のとらえ方の例を示したものの要領がわからず時間がかかってしまい、最後まで通すことができなかった。次回はいっとわりやすい性格の捉え方を示したい。
5	欲求とその対処	1月9日(火)・6校時 本時2回目の授業。前時で生徒が書いたものを例で示したことや欲求不満時の行動についてはスクリーンで行動例と場面例を示したので前回よりは早めに多く書くことができていた。そのためまとめの時間を長くとれたので今後の対処法や感想で望んでいたような感想を書く生徒が多かった。	1月11日(木)・5校時 (第2回公開検証授業)本時3回目の授業。前半が急ぎ足の授業になってしまったが、生徒は楽しそうに付箋紙に書き込み、分類作業を行っていた。後半のまとめの時間を長めにとったため、感想や今後の対処法ではこれまでより、さらに生活での実践力に結びつく記述が多く見られた。	1月5日(金)・2校時 本時の1回目の授業であった。本単元で初めて個人で付箋紙に書き込み貼り付けけるという方法でブレインストーミングを行なってみた。これまでのホワイトボードに書き込む方法より多くの事例が出てきたように思う。前半に時間をかけ過ぎたので次回からは後半に時間を多くとるようにしたい。	1月15日(月)・1校時 本時4回目の授業。前時までの反省を生かし、展開の前半をあわせて進めることができた。本学級は男女共習であるが、前回から男女別でグループを組んだことで活発に取り組むようになっている。欲求や欲求不満時の行動で男女の違いがはっきりあらわれていたことが興味深い結果であった。
		1月9日(火)・6校時 本時2回目の授業。前時で生徒が書いたものを例で示したことや欲求不満時の行動についてはスクリーンで行動例と場面例を示したので前回よりは早めに多く書くことができていた。そのためまとめの時間を長くとれたので今後の対処法や感想で望んでいたような感想を書く生徒が多かった。	1月11日(木)・5校時 (第2回公開検証授業)本時3回目の授業。前半が急ぎ足の授業になってしまったが、生徒は楽しそうに付箋紙に書き込み、分類作業を行っていた。後半のまとめの時間を長めにとったため、感想や今後の対処法ではこれまでより、さらに生活での実践力に結びつく記述が多く見られた。	1月5日(金)・2校時 本時の1回目の授業であった。本単元で初めて個人で付箋紙に書き込み貼り付けけるという方法でブレインストーミングを行なってみた。これまでのホワイトボードに書き込む方法より多くの事例が出てきたように思う。前半に時間をかけ過ぎたので次回からは後半に時間を多くとるようにしたい。	1月15日(月)・1校時 本時4回目の授業。前時までの反省を生かし、展開の前半をあわせて進めることができた。本学級は男女共習であるが、前回から男女別でグループを組んだことで活発に取り組むようになっている。欲求や欲求不満時の行動で男女の違いがはっきりあらわれていたことが興味深い結果であった。
6	ストレスとその対処	1月16日(火)・4校時 本時の2回目の授業。これまで同様、授業内容が多く急ぎ足の授業にはなったが、パワーポイントでの説明とワークシートのまとめも並行する方法での授業を進めた。これまでの流れの授業と比較すると学習内容のまとめはきちんとできているように思う。	1月18日(木)・1校時 本時の2回目の授業。ブレインストーミングもロールプレイも他の学級と比較し、楽しんでやっていた。学習内容のまとめもほとんどの生徒が班員同士で教えあっているように思える。	1月15日(月)・2校時 本時の1回目の授業。前時同様に付箋紙に書き込ませるブレインストーミングを行った。前時に行った学習法なので慣れもあり、かなり多くの事が書き出されていた。後半にはロールプレイで悩みを相談する側とされる側の役になり班で取り組ませたが、これも2度目のためか楽しそうに取り組んでいた。	1月22日(月)・1校時 本時の4回目の授業。検証授業最終の授業であった。本時も男女共習の特徴が現れた授業になった。ストレスへの対処法についてブレインストーミングを行ったが女子では友人と相談するというのが多くなってきた。他の男子だけのクラスと違いが見られ興味深かった。
		1月16日(火)・4校時 本時の2回目の授業。これまで同様、授業内容が多く急ぎ足の授業にはなったが、パワーポイントでの説明とワークシートのまとめも並行する方法での授業を進めた。これまでの流れの授業と比較すると学習内容のまとめはきちんとできているように思う。	1月18日(木)・1校時 本時の2回目の授業。ブレインストーミングもロールプレイも他の学級と比較し、楽しんでやっていた。学習内容のまとめもほとんどの生徒が班員同士で教えあっているように思える。	1月15日(月)・2校時 本時の1回目の授業。前時同様に付箋紙に書き込ませるブレインストーミングを行った。前時に行った学習法なので慣れもあり、かなり多くの事が書き出されていた。後半にはロールプレイで悩みを相談する側とされる側の役になり班で取り組ませたが、これも2度目のためか楽しそうに取り組んでいた。	1月22日(月)・1校時 本時の4回目の授業。検証授業最終の授業であった。本時も男女共習の特徴が現れた授業になった。ストレスへの対処法についてブレインストーミングを行ったが女子では友人と相談するというのが多くなってきた。他の男子だけのクラスと違いが見られ興味深かった。

12 各検証授業の様子

写真

オリエンテーションでのブレインストーミング。
班員のいいところさがしをやっている様子。

写真

各グループでディスカッションしている様子。班での話し合いの結果をホワイトボードに記入する。7組は男女共習。

写真

班でディスカッションし、まとめた意見をホワイトボードに書き一斉に黒板に貼りだした。代表が前で発表した。

写真

「自分らしさ」の授業。自立を知るためのロールプレイ。班で親と各年齢の子になつての会話をやっているところ。

写真

「ストレスの対処」の時間での1対1のロールプレイ。
友達との相談で心が軽くなったりするんだよね

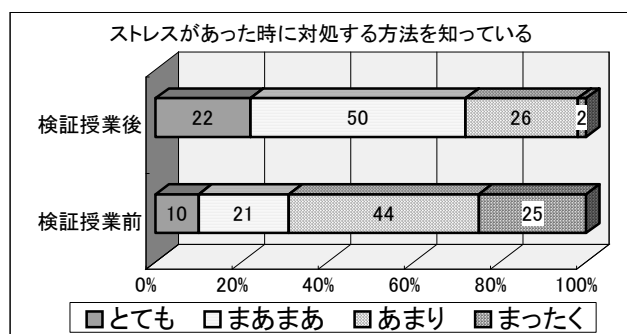
写真

自分のやっている・知っているストレスの解消法を
付箋紙に書いてたくさんあげてみた。何がいいかな？

13 全検証授業の分析・考察

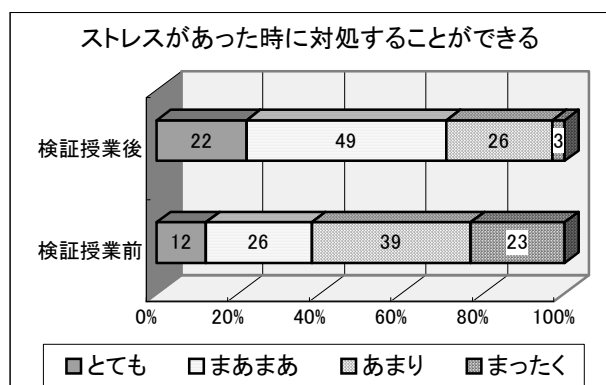
検証授業前と授業後に行った学習内容の「心の発達・心の健康」に関する生徒の意識調査で特に変容が認められたものを取りあげる。

(1) ストレスへの対処法



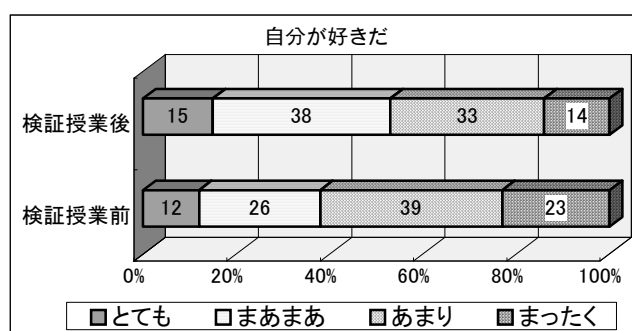
「ストレスがあったときに対処する方法を知っている」という質問に対し、検証授業前は「とても」10%「まあまあ」21%であったのが、検証授業後は「とても」22%、「まあまあ」50%と数値が大きく変わっている。

また「ストレスがあったときに対処することができる」は検証授業前「とても」12%「まあまあ」26%であったのが、検証授業後は「とても」22%、「まあまあ」49%と数値が大きく変わっている。



(2) 自己肯定感の高まり

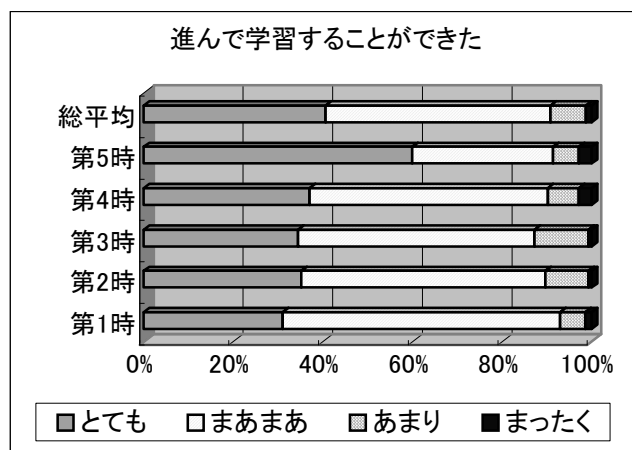
心の健康・発達においては自己肯定感が重要になってくる。自己肯定感を確認する上で行なった「自分が好きだ」という質問に対し検証授業前は「とても」12%、「まあまあ」26%であったのが、「自分らしさ」検証授業を通して自分の性格を知り、班の仲間から自分の良さをたくさん教えてもらったことなどにより「とても」15%、「まあまあ」38%と全体的に自己肯定感が高まっている。



(3) 意欲的な学び合い

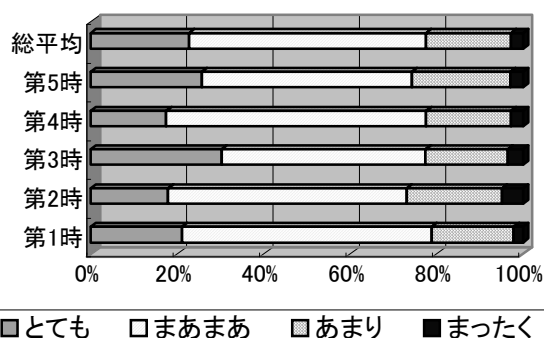
生徒が各授業後に行った自己評価は次の7項目ある。それを集計し、各項目別に第1時から第5時までをグラフにすると次のようになる。

「進んで学習することができた」という質問に対し、検証授業5時間の平均でみると「とても」45%、「まあまあ」46%で91%の生徒が進んで学習することができたということである。特に検証授業の最終の第5時の「ストレスとその対処」においては「とても」が60%となっており、検証授業前の「とても」10%と比較すると数値の上昇が著しく、回を重ねてきた学習の成果が現れたと捉えられる。



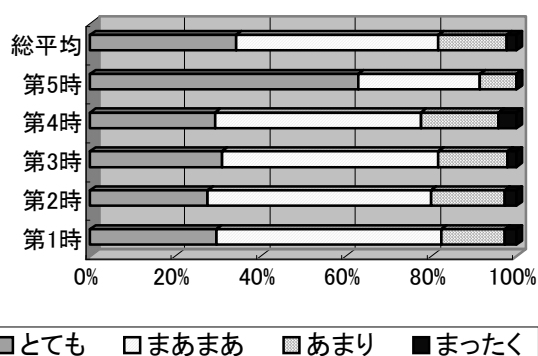
学習した内容に興味を持って、さらに学びたいという考えがあるかという観点から見ると、「もっと知りたい、調べたい」と思うことがあったかという質問に対しては総平均では「とても」23%、「まあまあ」50%となっている。第3時の「自分らしさ」の授業では数値が高くなっている。自分の性格を自分で捉えたり友人に教えてもらったりという内容であったが、授業内容が興味深かったと捉えたい。

もっと「知りたい、調べたい」と思うことがあった



次に学習をまとめることができたかということでは「とても」34%、「まあまあ」47%であった。合わせて81%の生徒が学習したことをまとめることができたと答えているが、授業づくりにおいて、考える場面や話し合い、活動する場面を多くとったために、生徒にとっては学習したことをまとめる時間は短く、不十分であったと考える。

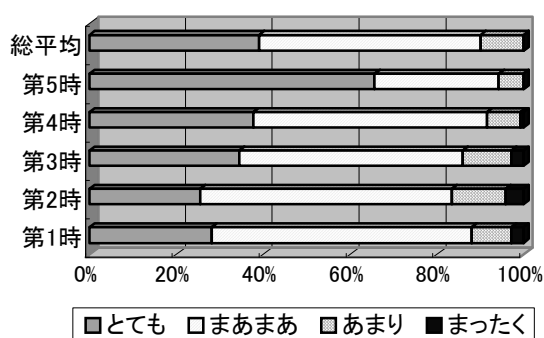
学習したことを考え、まとめることができた



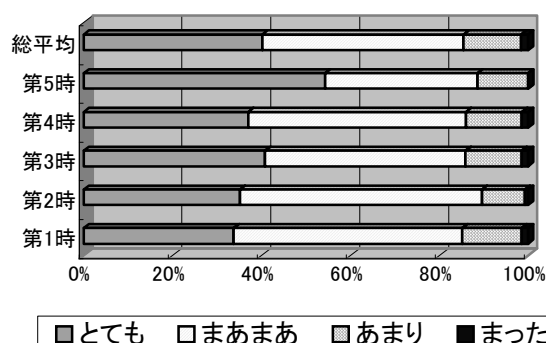
学習したことを理解できたかということでは、平均でみると「とても」理解できた39%、「まあまあ」51%となっている。この項目では第2時より回数を重ねるごとに数値が高くなっている。特に第5時の「ストレスとその対処」の授業においては「とても」66%、「まあまあ」29%と高い数値を示しており、学習の理解が十分図れたと言える。

学び合いを創り出していくために、グループ学習で進めた今回の検証授業において「友達と助け合って学習できたか」ということに対して、「とても」40%、「まあまあ」45%となっており、グループ学習を通して、概ね友達と協力しあって学習できたと言える。

学習したことを十分理解できた



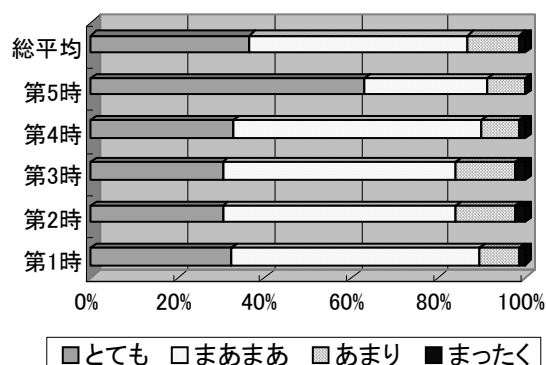
友達と助けあって学習できた



(4) 生活の中での実践化

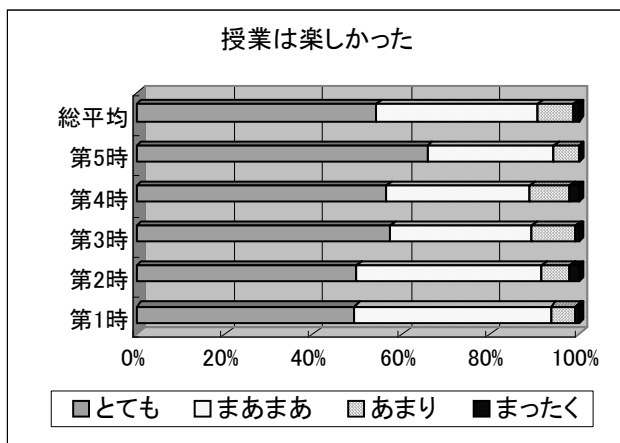
次に今回の研究で目指している、生活の中での実践力につながる「学習したことを生活に生かしていける」ということで見ると全体の平均で「とても」37%「まあまあ」50%と87%の生徒が生活に役立つと捉えている。その中において第5時の「ストレスとその対処」の授業においては「とても」63%「まあまあ」29%と92%が生活に役立つと答えている。その授業は生活に役立ち、実践化につながる授業だったと考える。

学習したことを生活に生かしていける



(5) 楽しい保健の授業

最後に「授業は楽しかった」という事からみると他の6項目と比較しても一番高い数値となっている。検証授業前の調査では「保健の授業は好きか」という質問に対して約半数の生徒が「あまり」「まったく」好きじゃないと答えていたが、今回の授業後の生徒の自己評価からは全体平均で「とても」楽しかった54%「まあまあ」36%となっており、90%の生徒が楽しく授業をすることができたと感じている。



(6) 各授業での生徒のワークシートの記述より

第1時（考え、感動し、決断する心）

- ・脳はすごいと思った。もっと脳を発達させる（2組 N）
- ・スポーツをしたり、勉強して生き生きと豊かに脳を発達させていきたい（1組 N）
- ・いろんな経験をつみ、いろんな人とのかわり持ち、感情を豊かにしたいです（7組 N）

脳がどのように発達しているのかわかった。
今日の授業でいろんな事と知りたかったと思っただけ。

第2時（人とのかわり）

- ・強い心をもとうと思った。（6組 Y）
- ・心が大切だとわかった。（6組 K）
- ・人づきあいは大切だと思った（5組 H）

自分の気持ちを相手に伝える
ことが一番むずかしいと思った。
いろいろな経験をして成長していきたい。

第3時（自分らしさ）

- ・今日のおかげで少しだけ自分を好きになれた。（2組 Z）
- ・自分のことがよくわかったからうれしかった（5組 N）

自分の性格かわかり、悪い所を
通していきたい。

第4時（欲求とその対処）

- ・気持ちをきりかえて別のもので気をまぎらわしたり欲求実現のために努力する。（4組 T）
- ・僕の行動は逃避だったのでこれからは前向きに考えて適応行動をしたい。（3組 T）
- ・今までは落ち込んだりしてたけどこれからは前向きになりたい。（7組 I）

2. 欲求不満が起こったときの、あなたの行動や対処法はどうでしたか。これからは、どのようにしたいですか。
起こったら投げ出したり 周りの人にあたったり 人のせいにしたり あきらめたり していた
対処法は、自分の目標に向かってがんばる
一度はあきらめでも実現するまで がんばりたい!

第5時間（ストレスとその対処）

- ・自分にあった対処法を見つけて対処していく（5組 K）
- ・ストレスがたまったらすぐに使うようにしていきたいと思います。それから、人にストレスをあたえないようにしたいです（1組 N）
- ・これからはストレスに対して人に相談したり気分転換して行きたい。（4組 H）

みんなは、いろいろなストレスの対処のしかたを知っていた。
いい対処のしかたは、やってみたい!

ストレスはない方がいいと思ったけど、
ストレスは心や体の発達につながっているんだなと思いました。
自分にストレスがあると思ったら、ストレスに対処する方法を
やってみよう。

以上のような生徒のワークシートの記述から学習したことを自分のこととして捉え、これからの生活に結びつけて考えている事がわかる。

14 全校授業後の生徒の自己評価の結果

とても B・・・まあまあ C・・・あまり D・・・まったく

1	オリエンテーション	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	45%	40%	8%	7%	63	64	11	2	140
		2. 学習内容を理解することができた	54%	39%	6%	1%	76	54	9	1	140
		3. 友だちと助けあって学習できた	49%	39%	10%	2%	69	54	14	3	140

2	考え、感動し、決断する心	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	31%	62%	6%	1%	44	88	8	2	142
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	21%	58%	19%	2%	30	82	27	3	142
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	30%	53%	15%	2%	42	75	21	4	142
		4. 学習したことを十分理解できた	28%	60%	9%	3%	40	85	13	4	142
		5. 友だちと助けあって学習できた	34%	51%	13%	1%	48	73	19	2	142
		6. 学習したことを生活に生かしている	32%	57%	9%	1%	46	81	13	2	142
		7. 授業は楽しかった	49%	44%	6%	1%	70	63	8	1	142

3	人とのかわり	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	35%	54%	10%	1%	51	79	14	1	145
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	18%	55%	22%	5%	26	80	32	7	145
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	28%	52%	17%	3%	40	76	25	4	145
		4. 学習したことを十分理解できた	29%	58%	12%	4%	37	84	18	6	145
		5. 友だちと助けあって学習できた	36%	49%	12%	3%	52	71	17	5	145
		6. 学習したことを生活に生かしている	30%	54%	14%	2%	44	78	20	3	145
		7. 授業は楽しかった	50%	42%	6%	2%	72	61	9	3	145

4	自分らしさ	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	35%	53%	12%	1%	49	75	17	1	142
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	30%	47%	19%	4%	43	67	27	5	142
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	31%	51%	16%	2%	44	72	23	3	142
		4. 学習したことを十分理解できた	35%	51%	11%	3%	49	73	16	4	142
		5. 友だちと助けあって学習できた	41%	45%	13%	1%	58	64	18	2	142
		6. 学習したことを生活に生かしている	30%	54%	14%	2%	43	61	23	2	142
		7. 授業は楽しかった	57%	32%	11%	1%	81	45	15	1	142

5	欲求とその対処	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	37%	53%	7%	2%	53	76	10	4	143
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	17%	60%	20%	3%	25	86	28	4	143
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	25%	48%	18%	4%	42	69	26	6	143
		4. 学習したことを十分理解できた	38%	54%	8%	1%	54	77	11	1	143
		5. 友だちと助けあって学習できた	37%	49%	13%	1%	53	70	18	2	143
		6. 学習したことを生活に生かしている	33%	57%	8%	1%	47	82	12	2	143
		7. 授業は楽しかった	57%	32%	9%	2%	81	46	13	3	143

6	ストレスとその対処	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	60%	31%	6%	3%	86	48	7	1	144
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	28%	49%	23%	3%	39	77	27	1	144
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	63%	29%	9%	0%	77	48	19	0	144
		4. 学習したことを十分理解できた	68%	29%	6%	0%	72	55	16	1	144
		5. 友だちと助けあって学習できた	54%	34%	11%	0%	64	56	24	0	144
		6. 学習したことを生活に生かしている	63%	29%	9%	0%	69	58	17	0	144
		7. 授業は楽しかった	68%	29%	6%	0%	85	45	14	0	144

全校集計	合計	項目	%				人数				合計 (人)
			A	B	C	D	A	B	C	D	
		1. 進んで学習することができた	41%	50%	8%	1%	348	430	67	11	856
		2. もっと知りたい、調べたいと思うことがあった	23%	55%	20%	3%	163	392	141	20	716
		3. 学習したことを考え、まとめることができた	34%	47%	16%	2%	245	340	114	17	716
		4. 学習したことを十分理解できた	38%	50%	10%	2%	328	428	83	17	856
		5. 友だちと助けあって学習できた	40%	45%	13%	2%	344	388	110	14	856
		6. 学習したことを生活に生かしている	37%	50%	12%	1%	282	380	85	9	716
		7. 授業は楽しかった	54%	38%	8%	1%	389	260	56	8	716

Ⅷ 研究の結果と考察

本研究ではテーマを「意欲的に学び合う保健学習指導の工夫～1学年の「心の発達・健康」学習を通して～」と設定し基本仮説を「保健の学習で情報機器を効果的に活用し、授業形態や教材・教具を工夫することによって意欲的に取り組み、学び合うようになるであろう」とし、研究を進めてきた。さらに基本仮説をより具体化した3つの具体仮説を立て、理論研究や実態調査を行ない、活動計画を基に検証授業を実践してきた。そこで具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 具体仮説1の検証

保健学習や学び合いに関する理論研究や生徒・教師の実態調査を行い、分析することによって実態に応じた指導のあり方が明確になるであろう。

健康に関して様々な問題を抱える現代社会において、保健学習がより重要となってきた。

しかし、今回保健学習に関するアンケート調査を行なった結果、生徒は保健の授業があまり好きではなく、意欲的に取り組んでいないという実態が明らかになった。

そこで、まずは生徒が保健の授業が好きと感じ、意欲的に取り組める授業づくりが求められる。

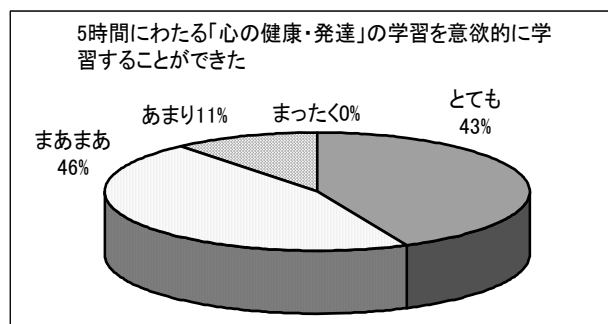
生徒や教師に対するアンケートの結果からも、生徒は教師主導の一斉指導よりはグループ学習を好む結果が出ている。また、ビデオやスクリーンでの説明があると授業がわかりやすい、楽しいと思っている生徒がほとんどであった。一方、保健体育の教師に対する調査ではグループ学習やパソコン等情報機器を活用した授業はあまり行われていない実態がわかった。

そこで、生徒が意欲的に学び合うようにするために、生徒が好み、より学び合いの効果が期待できるグループ学習や様々な学習形態を積極的に取り入れたり、生徒が好み、指導効果のあがるパソコン等情報機器を活用した学び合いのある授業づくりの必要性がわかった。

そして、検証授業を進めた結果、検証授業前にお

いては保健学習が「好き」「意欲的に取り組んでいる」という生徒が約半数しかいなかった実態が検証授業後は意欲的に学習することが出来た生徒が「とても」43%、「まあまあ」46%とあわせて89%の生徒が意欲的に学習できたと答えている。以上のことから実態に応じた指導のあり方が明確になったと言える。

よって、具体仮説1は検証されたと言える。



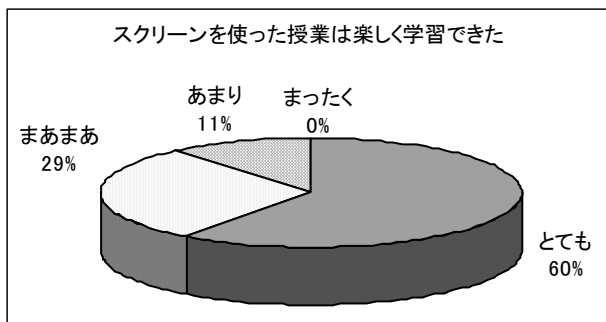
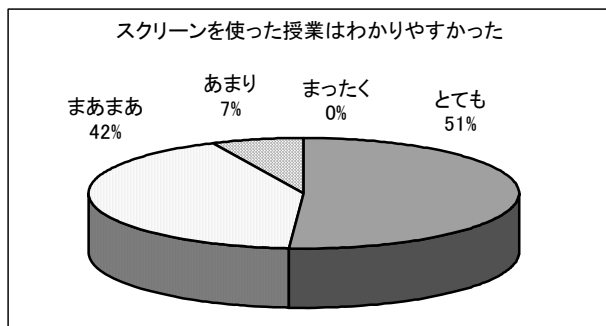
2 具体仮説2の検証

情報機器を効果的に取り入れ、授業形態や教材・教具の活用を工夫することによって意欲的に学習し、学び合うようになるであろう。

各授業においてパソコンのパワーポイントで作成したスライドをスクリーンに照射して授業を進めてきた。このような授業方法について学習終了後のアンケートからは次のような結果と感想が出ている。

生徒はスクリーンを使った授業はわかりやすかったと答えた生徒が「とても」51%、「まあまあ」43%であわせて94%の生徒がわかりやすかったと答えている。またスクリーンを使った授業は楽しかったということに対しては「とても」60%、「まあまあ」29%で、89%の生徒はスクリーンを使った授業は楽しく学習できたと答えている。ワークシートにも「スクリーンを使った授業はわかりやすかった」「楽しかった」と多くの感想が見られた。

この結果から情報機器（パソコンのパワーポイントによるスライド照射）を取り入れた授業方法は生徒にとって、わかりやすく、楽しかったと言える。意欲的に授業に取り組ませるために効果的だったと考える。



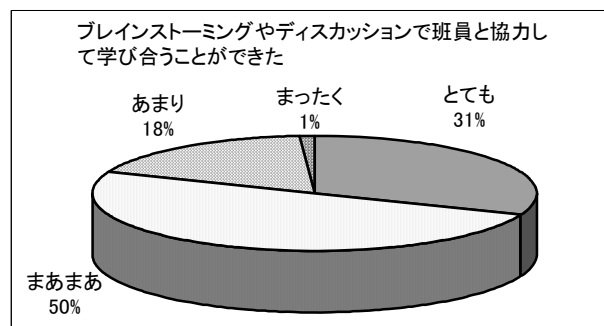
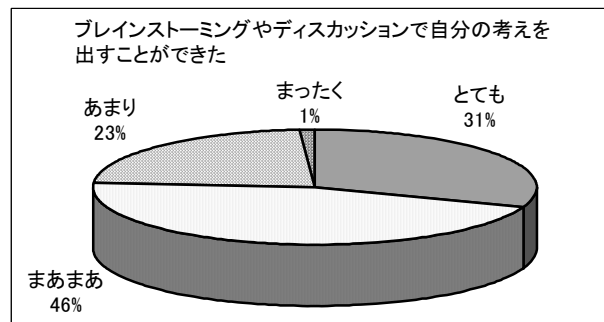
スクリーンを使った授業の感想

- ・絵がわかりやすかった。(1組)
- ・とてもわかりやすかった。黒板の字よりも大きくて見やすかった。(2組)
- ・わかりやすくて楽しかった。またやってほしい。(4組)
- ・グラフとかを使っていてわかりやすかった。(5組)

次に学び合いをつくり出していくため取り入れた様々な学習形態については、アンケートから次のような結果と感想が出ている。

班での話し合い・学び合いを進めるために取り入れたブレインストーミングやディスカッションで自分の考えを出すことができたということに対し「とても」31%、「まあまあ」46%となっており、感想では「自分の考えをたくさん出せてよかった」といった感想が多く見られた。またブレインストーミングやディスカッションで班員と協力して学び合うことができたかということでは「とても」31%、「まあまあ」50%となって81%の生徒が班員と協力して学び合えたとしている。感想では「友達とのふれあいをふかめることができた」といった感想も見られた。以上のことから、ブレインストーミングやディスカッションは生徒にとって、自分の考えている

ことを発言したり、自分の事を付箋紙に多く書いたりできることが学習の満足感となっている。また、班の仲間やクラスの生徒の考えていることや行動も多くわかり、自分との違いを通してそこから学ぶ事も多い。班員との心のふれあいなども見られ、学び合いを促す上で非常に有効だったと言える。

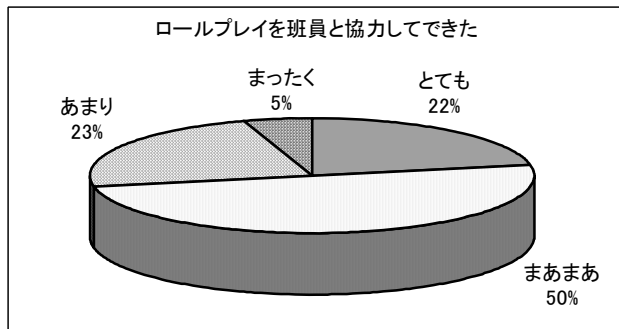


ブレインストーミングやディスカッションの感想

- ・班員と協力して、考えを出したり、学びあうことができた(1組 A)
- ・友達とのふれあいをふかめることができた。(3組 I)
- ・自分の考えをたくさん出せてよかった(6組 M)
- ・友達がどんなことを思っているのかわかった(1組 M)

次にロールプレイについてみると、班員と協力してできたかということに「とても」22%、「まあまあ」50%となっている。

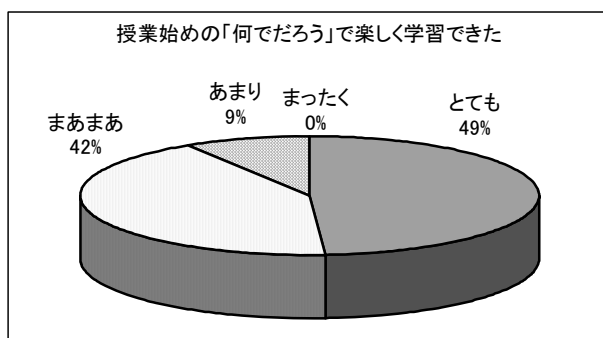
ロールプレイは役割を演じるということで恥ずかしさが生じる活動であるが、大半の生徒が班員と協力してできたと言える。また「役割を演じることで相手の気持ちをを知ることができたと思う」や「役割をする人の気持ちがわかった」といった感想もあり、ロールプレイを通して、効果的に学ぶ事ができたと捉える。よって、指導のねらいは達成できたものとする。



ロールプレイについての感想

- ・役割を演じることで相手の気持ちを知ることができたと思う (1組 M)
- ・役割をする人の気持ちがわかった (5組 N)
- ・みんなが役割になりきっていたのでわかりやすかった (4組 A)

次に授業の導入で取り入れたギターと替え歌での「何でだろう」の問題提示について見ると

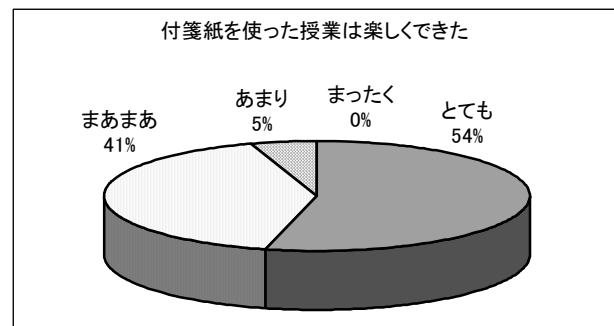
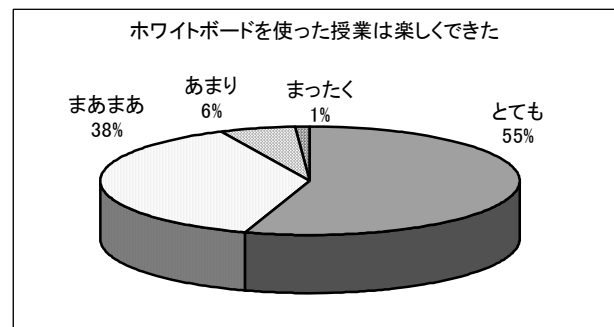


授業始めの「何でだろう」についての感想

- ・楽しく考えることができた (4組 H)
- ・その日の授業の内容がわかった (6組 S)
- ・グループでたくさん考えることができた (7組 I)
- ・授業始めの「何でだろう」が楽しみになっていた。 (1組 M)

授業始めの「何でだろう」で楽しく学習できたが「とても」49%、「まあまあ」42%となっており91%が楽しく学習できたとしている。単元前の調査と比較すると大幅な数値の上昇である。また「その日の授業の内容がわかった」や「グループでたくさん考えることができた」といった感想もみられ、導入の工夫としての替え歌による問題提示は、授業を楽しくし、考えさせるということで非常に有効だったと言える。

次に教材・教具の工夫として全ての授業で使った「ホワイトボード」や後半の授業のブレインストーミングで使った「付箋紙」についてみると、ホワイトボードを使った授業は楽しかったが「とても」55%、「まあまあ」38%で合わせて93%の生徒が楽しかったと答えている。付箋紙については合わせて95%が楽しかったと答えている。

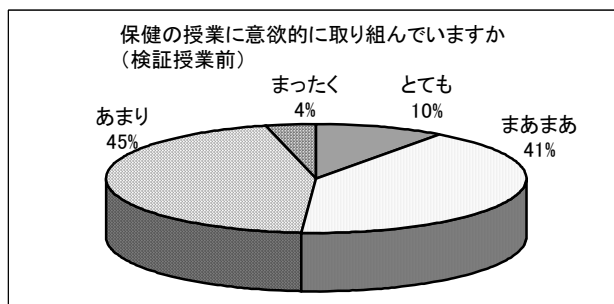


ホワイトボードや付箋紙を使った授業の感想

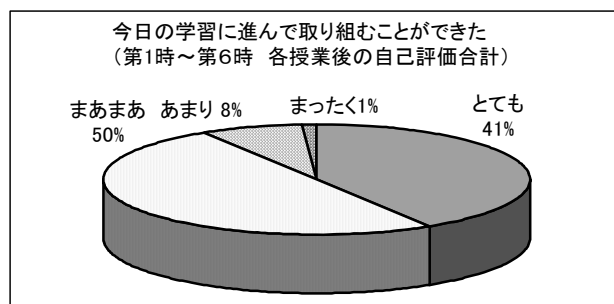
- ・自分の意見をいっぱい書けたので楽しかった (5組 M)
- ・いろんな意見があつておもしろかった (6組 S)
- ・ホワイトボードを使うとみんなの意見がみれていろんなことがわかるからあつたほうがいいと思った。 (1組 M)
- ・自分の気持ちを発表するのではなく書くことでいろんなことがかけた (1組 M)

感想では「自分の意見をいっぱい書いて楽しかった」といったことが多く見られた。「書くことで発表するより自分のいろんなことが書けた」といった感想も見られた。ホワイトボードや付箋紙の使用は生徒が自分のことや考えを出すことを楽しく、意欲的にさせている。また、班員の考えを見たり、黒板に貼りだしたときにクラスのみんなのいろんな考えが知ることができ、学び合いの授業を創っていく上で非常に効果的だったと言える。

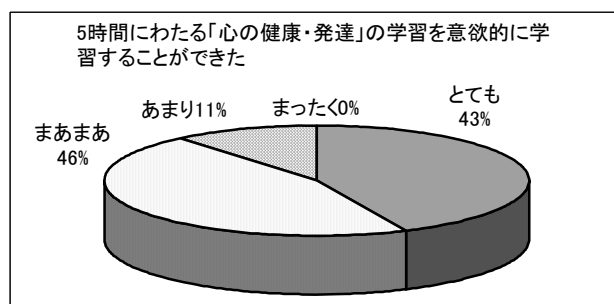
最後に授業全体を意欲的に取り組んだかという事から見てみる。検証授業に入る前に行なったアンケート調査の結果は保健の「授業に意欲的に取り組んでいますか」という事に対し、「とても」10%、「まあまあ」41%であった。約半数の生徒があまり意欲的ではないという実態であった。このことは同時に市内の保健体育教諭に対して行なった調査でも同様な結果であった。



検証授業後の自己評価では



全学習終了後の調査では



そのような実態の中、検証授業を行い、その各授業後に行った自己評価の集計（第1時から第6時までの合計）では「とても」41%、「まあまあ」50%と91%の生徒が進んで学習できたと答えている。全学習終了後に行った調査でも、ほぼ同様な数値になっており、意欲的に学習したと言える。これは、検証授業前の「とても」10%、「まあまあ」41%と比較してみると、大きな変容が見られたと言える。以上のことから、情報機器を効果的に取り入れ、授

業形態や教材・教具の活用を工夫することによって意欲的に学習し、学び合うようになったと捉える。

よって、具体仮説2は検証されたと言える。

3 具体仮説3の検証

各授業で生徒に学習の感想を書かせたり自己評価を行わせ、教師がそれを分析する事により、よりよい学び合いが作り出せ、生活の中での実践化につながるであろう。

生徒のワークシートに、その日学習したことを自分の事として捉えた感想を書かせてきた。その中からいくつかひろってみると、「人とかかわり」の授業では「自分の気持ちを相手に伝えることが一番難しいと思った。いろいろな経験をして成長していきたい」、「欲求とその対処」の授業では「気持ちをきりかえて別のものでまぎらわしたり、欲求実現のために努力する」、「ストレスとその対処」の授業では「みんなのいい対処を見てやってみたい（ためしてみたい）」などの記述をしている。これらの記述は学習したことを自分のこととして捉え、今後の生活と結び付けて考えていると言える。保健の学習が単に知識が身につくだけではなく、現在及び将来の生活における実践力を求めるということからすると、その素地となる学習ができたと考える。

各授業で生徒に行かせた自己評価は生徒に学習を振り返る場を与え、生徒が授業に臨む意識を高めていったと考える。また教師にとっても、生徒のワークシートの感想や生徒が行なう自己評価の分析が、授業づくりや授業の改善の大きな資料となった。

自己評価の集計の結果からも授業の回数を重ねていくごとに「進んで学習することができた」等全ての項目の数値が高まっている。このことから学び合いの授業づくりに生徒の自己評価が効果的であったと考える。

次に生活の中での実践化ということで見ると「学習したことを生活に生かしていける」の学習全体の平均が「とても」37%「まあまあ」50%となっており、ほとんどの生徒が生活に役立つと捉えている。またその中において将来の生活の中で最も実践力が

必要となるであろうストレスの対処の仕方については「ストレスとその対処」の授業後の自己評価から「学習したことを生活に生かしていける」が「とても」63%「まあまあ」29%と92%が生活で生かしていけるとし、非常に高い数値になっている。

以上のことから、各授業で生徒に学習の感想を書かせたり、自己評価を行わせたり、教師がそれを分析する事により、よりよい学び合いが作り出せたと考える。また生活の中での実践力はすぐには確かめられないものの、その素地となる考え方が育ち、実践化につながったと考える。

よって、具体仮説3は検証されたと言える。

IX 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ブレインストーミングやディスカッションを取り入れた授業をすることにより、班の中で自分の考えを出したり、友達の考えを聞いたり、全体の場で他の班の考えを知ったりして、学び合いのある授業を創り出すことができた。
- 学び合いで得た知識は生活の中での実践力につながる生きた知識となることがわかった。
- ブレインストーミングで付箋紙やホワイトボードに書き込む方法をとることで意欲的に取り組ませることができた。
- 情報機器を効果的に活用することで生徒が意欲的に取り組む授業を進めることができた。
- ワークシートを工夫することによって、生徒が学習したことを自分のこととして捉え、生活の中での実践化につながった。
- 授業の導入を工夫することによって、生徒の興味・関心を引き付け、考えさせ、生徒が楽しく参

加できる授業づくりができた。

2 今後の課題

- ・学年相応、並びに個に応じた心の発達についての理論研究の継続。
- ・教材研究を深め、学習内容を効果的に伝えるための授業展開の工夫。
- ・他の学習単元での実施。

3 おわりに

「教師が変われば生徒は変わる」「教師は授業で勝負する」どちらも我々教師が何度も聞いてきた言葉である。今回の研究を通して、この言葉の意味を強く実感することができた。これまで保健体育の教師を長年務めてきて常に感じていた「生徒は保健の授業が好きじゃない」ということは研究の前半の調査で現実の数値となって目の前に突きつけられた。

そこで、今回、生徒が意欲的に学び合うようになるよう、いろいろな手だてを取り授業を進めた。その結果、生徒は見違えるように目を輝かせ、授業に取り組むようになった。1学年全クラスでの24回という多めの検証授業であったが、回を重ねるごとに意欲的に学び合う生徒を見ることができたことは私にとって大きな財産となった。「もっと早くこういった授業をやっていれば・・・」「他の教師にもぜひこの教材を役立ててもらいたい」今の私の正直な感想である。

現在、本校では今回使った教材・教具を使い、今回と同じような流れで女子の保健の授業が展開されている。私同様に、生徒の授業での変容振りを見て喜ぶ女性体育教諭を見て、自分の事のように嬉しい思いである。

<主な参考文献・引用文献>

- ① 文部科学省 1999『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説—保健体育編—』東山書房
- ② 皆川興栄 2005『総合学習でするライフスキルトレーニング』明治図書
- ③ 琉球大学教育学部附属中学校 2005・2006『研究紀要第17集・18集 学び合う授業づくり』
- ④ 佐藤学 2003『授業を変える 学校が変わる』小学館
- ⑤ 水越敏行 1994『効果的な指導法と学習形態』ぎょうせい
- ⑥ 宮里中学校 2000～2002『教育課程研究校 一年次～三年次研究紀要』